戰闘雜誌

進め

第一年第九號
大正十二年十二月

第一年 第九號

震災が社會運動に與へた影響……赤松克麿
(一)資本の集中とデモクラット運動……國領五一郎
(二)普選を促せし地震……布施辰治
最醜惡なる刑事々件……岡陽之助
時評……石川準十郎
九個の死屍……リベツ化の傾向……横田忠夫
火焰！銃聲！半鐘！竹槍！
赤化宣傳……柴耕介……遠川近友
地震と社會主義……北原龍雄
無産青年に檄す十篇(1)
(一)農村青年に與ふ……岡部完介
(二)宗敎に走らんとする青年へ……平林初之輔
(三)組合運動者に訴ふ……赤松克麿
(四)安月給取青年諸君へ……新井友三
(五)職業婦人に寄せる……權藤せい子
同志川崎君逝く……編輯後記
甘粕大尉と語る……福田狂二

定價一部十錢

大阪 西野田 進め社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御見舞御禮

未曾有の大地震大火災及び流言蜚語、數多の同志の慘殺等に就いて讀者諸君から御鄭重なる御見舞の辭や、御熱誠なる激勵文を賜りましたことを、深く感謝致します。

幸に本社は竹下君が自警團に襲はれて重傷を受けた外、九月號の「進め」及びリーフレット、パンフレット等が印刷所が類燒した爲、燒失した外、大して損害を受けませんでしたから御安心下さい。

同人一同は十月以後大阪に築り、悉く元氣旺盛で、銃劍や竹槍や牢獄を甘んじて受けなくてはならぬプロレタリア解放戰途上の第一線に立つて、赤旗を飜して進む決心に滿ち滿ちて居ます。

略儀乍ら誌上を以て御禮を申上げます。

大正十二年十二月

大阪市北區西野田大開町一ノ九二二

進め社

振替大阪六九〇七二番

見舞金募集

銃劍の前に斃れた九人の家族を慰める爲め、せめて見舞金を贈りたい。讀者諸君の贊同を願ふ。

一、制限條件等一切なし
二、金額と氏名とを誌上で發表する
三、贈金に關しては一切進め社に委されたし

進め社

戰線の新鋭

(月刊)

農民運動

(一部十錢)

東京府下日暮里町日暮里三九一農民運動社

同人 稲村隆一、森崎源吉、平野學、北原龍雄

(月刊)

第一線

(一部十五錢)

長野縣下伊那郡上飯田村四六二七第一線社

同人 羽生三七、林武雄、宮島義治、安藤重一

(半月刊)

勞働者新聞

(一部五錢)

大阪市北區西野田江成町 勞働者新聞社

日本勞働總同盟關西同盟會機關紙

(月刊)

建設者

(一部廿錢)

東京市外池袋九三〇 建設者同盟本部

同人 淺沼稻次郎、三宅正一、高津渡

(月刊)

土地と自由

(一部十錢)

神戸市北本町六丁目二二〇 土地と自由社

行政 長藏

杉山元治郎

進め

無產階級の子弟に依て組織されたる兵隊は二ケ月の間殘骸の帝都の治安維持に努めた。但兵士諸君よ、君等の團結の威力を何れに行使したら正しいかと云ふ事を考へて欲しい。

第一年戰鬪・進め・雜誌第九號

リベツ化の傾向

此度の震災に際し、所謂民衆が、社會主義者を不逞の徒となして、その胸元に、白刄や竹槍を突きつけた。常に、民衆の先驅、無產大衆の味方を以つて任じたものが、返つて、その矛先の的となる。確かに矛盾であり皮肉でなければならぬ。

此の事實を指して、或者は、官憲の刺戟宣傳として怒つた。それも當らぬことはない。彼等には充分にその機關と力とがある。けれども、彼等は素より、私等の力と當面抗爭しつゝある敵である。今更、驚き悟らねばならぬ程生やさしい代物ではなかつた筈だ。

或者は、民衆の頑愚を嘲罵した。併し、由來民衆そのものは、無定見の群である。その力は偉大ではあるが、無組織、不統一の民衆そのものを直ちに、私等の味方だとはされない。ここに私等は、端なくも、かのアナキストの徒が好んで口にする『民衆は、決して指導するな。ほつとけば自ら理想へ進む』の語を想起して苦笑、禁じ難い。

要するに、是等は、未だ多く耳を藉すに足らぬ。が、私等が、如何にしても看過し難きは、主義者のリベツ化とする。リベツ化とは共產主義の本流を踏みはずして、リベラリズムへ寢返りを打つことを意味する嘲語である。

成る程、私等の運動は、是迄、民衆の意志とは餘りに赤の他人でありすぎたかも知れぬ。大衆の解放運動と稱しつゝ、その生活とは餘りに掛け離れて孤立獨行の形があつたでもあらう。されば、曾て一部の同志に依つて呼ばれたる『方向轉換』も眞に有意義のこととされる。併し、それは、單に、運動方式の轉換であつて、決して、コンミユニズムの原理そのものの修正でも否定でもなかつた筈である。

元來、社會運動は、大衆を力とする運動である。されば、よしそれが、改良主義的運動のなまぬるきにもせよ、その中に眞の力を看取し、勇敢に、渦中に身を投ずべきである。逡巡すべきではない。さりながら、コンミユニズムは眞に覺めたる少數の優秀な無產階級の眞理である。そは恰も、光の如く、たとへ灰色主義の中に在らうとも、斷じて、そのために消し去らるべきものではない。優秀なるプロレタリヤの眞理そのものは、むしろ、大衆より孤立すべきを原則とせぬか。

近時、普選實現の豫想に依つて、リベラリズム（若しくは、社會民主々義）的運動が盛んになつて來た。その力は大きくなるであらう。リベラリストは、滔々相率ひて、その潮に合流するであらう。

私等は、此の重大時期に當面して、かの民衆にオベツカしすぎて、リベツ化する傾向を、同志の中に見、私かに嘆ぜざるを得ない。（岡陽之助）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

地震と社會主義

—社會主義者の今後の途に就て—

北原靜雄

一　意想外の影響

地震は自然現象で、社會主義は社會思想である。此の二つの間に何等の有機的關係はない。而も關係の無い所に偶然なる關係が突發して、社會主義と言ふ思想自身も、それを支持する社會主義者も、豫想せざる影響を被つた。

それは、多くの人のもう知悉せるであらう如き社會主義に關する跡方もなき流言蜚語から始まる。尤も流言の對象は社會主義だけではなく、寧ろ朝鮮人が主眼であつて、社會主義はその附き合ひに引き出された樣子であつた。

朝鮮人と言へば、我々は單に九州人とか、東北人とか言ふが如く、一つの地方の人と言ふ以外、何等の意味はないと考へて居つた。あのやうな事變に際して、あのやうな誤解を受け、迫害の包圍の裡に陥るやうな理由は想像もしなかつた。此の事件は、勿論一つの獨立した問題として、飽くまで考慮しなければならぬ。併し、こゝでは先づ、社會主義に關する一面のみ取扱ふ事とする。

二　流言蜚語の正體

社會主義者の着せられた、ヌレギヌ、馬鹿げ切つた流言の正體を指し示す爲めに、一つの新聞切拔を取り出す。それには、第十四師團參謀長井染大佐と稱する選り拔きのヨタ者が左の如く『發表』した。とある。(九月七日の下野新聞)

「今度の不逞鮮人の不逞行爲に就ては當初から背後に何等かの勢力があつて之が糸を操つてゐるのであらうと考察して居たが果して日を逐ふに從ふて若干の事實が發見されて來た。即ち今回の不逞鮮人の不逞行爲の裏には社會主義者やロシャの過激派が大なる關係を有する樣である社會主義者の計畫は支那人並に鮮人を煽動して不逞の擧動並に不德なる行動を爲さしめ治安を紊し官憲が大災厄に遭遇してこれは奔命してゐるを幸として官憲の無力を宣傳し、盛んに不穩當なる流言蜚語を放ち各種の奇怪極まる浮說を宣傳せしめ官憲の不信を流說し、官憲と人民との間に對抗的勢力をつくらんことを策する一方鮮人を煽動して不逞行爲をなさしめ內亂暴動を全國に波及せしめ以て一擧に彼等の希望する極端なる民主政治を實現せんとたくらんだのである。而して右の計畫に就てはある時機に於てこれを實行するの考があつたものであるが、それが今度の大災厄を幸として急速になされた模樣である。又鮮人の計畫は秩序あり統一あり組織的のものでその準備も稍完全に近きものがあつた樣である。これに就てはこれを證明すべき幾多の事實が既に發見され某重要方面に於て確信を得たものである。彼等の財源は言ふまでもなく上海にその根源を有する。ロシアである。ロシアの過激派と不逞鮮人との間には餘程密接なる連絡がある樣だ。神戸附近にロシア過激派の購買組合があるが彼等がこゝを本據として上海との連絡をとつてゐる事實があり、ヨッフエ氏滯在中に於てもロシアの過激派と社會主義者と不逞鮮人との間にある連絡があつた樣に思ふ。要するに今回不逞行爲はこの三者の三角關係を根幹として行はれたもので、これは疑ひなき事である。斯樣にして右の事實が漸次判明したので東京附近では、一般民衆の社會主義者に對する激昂の情がたまり、同時に主義者に近き者、若しくば輕妄なる新思想家に對する民衆の反感が漸次昂まりつゝある模樣である。」

三　問題の中心

陸軍大佐ともあらう者が、こんな馬鹿を並べる事を怒るよりも、こんな事を言ふ低能兒が陸軍大佐になる事の滑稽さに、先づ我々は吹き出したくなる。話が橫道へ外れるけれど『國防の危機』は軍人が低能なる事より甚しいはないと思ふ。兵器の改造や兵員の充實と共に、せめて低能兒だけは、軍隊の、殊に參謀など、言ふ要所に置いてはならぬ。戸塚の農民運動社へ拔刀で斬り込んで、子供を抱いた森崎の妻君まで後ろ手を縛り上げ無抵抗の六人を引致するのに劍付鐵砲を三十本近くも突き付けた近衞騎兵の武者振りに我々は日本軍人の狼狽振りの典型を見せられてるが、こゝには又、參謀軍人の淺薄と狂燥とを餘りに無遠慮に見せ付けられた。

併し今私等の仕事は、低能大佐や狼狽大尉を冷笑してる事ではない。私等に取つての問題は、一低能大佐の聲が『盛んに不穩當なる流言蜚語を放ち、各種奇怪極まる浮說を宣傳し』た事でなくて、之等の流言や浮說が、一般大衆の心を幾分なりとも動かした事である。之が、私等に取つての問題の中心である。

四　エピ、ソードの始り

文章の係をかえて、こゝに一つのエピソードをあげる。

私は十月の中旬、東京から北陸線を通つて關西に向つた途中の汽車に、二人の人と向ひ合せて座を占めた。その中の一人は、越中あたりの在鄕軍人で、他の一人は陸軍の衞生材料廠に居る伍長だとはアトで分つたが、二人の間に談論頗る賑かで、問題は甘粕事件だつた。何れも軍人だとあるから、押しも押されもせぬ愛國者揃ひである。大杉の罵倒と甘粕の稱揚とが、刻々熱を高めて行き、甘粕が出なかつたら俺達がやつたとでも言ふやうな口吻である。社會主義と無政府主義とは、こう言ふ豪傑に取つて、勿論區別はないので、側で聞いてる私は聊か薄氣味が惡くなつて、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

首の廻りにかすかな寒氣を覺へて來た。その中二人の議論は益々調子を高め、廿柏は宜しく無罪にすべきもの也と、辯護士の塚崎實名氏はハダシで逃げそうな結論に達した。

所が、間もなく二人の話題が一變した。

衛生材料廠の伍長は、震災後、材料廠が藥品其他の衛生資料を供給し、それに依つて一般世人はどれ程の利益を得たかも知れない事を如何にも得意げに語り初めた。

「そりや何しろ國家の力でやつてるんだから、必要なだけドン／＼供給するんだ材料廠が無かつた日には、あの何十萬の病人や負傷者がどれ程苦しんだか知れませんぜ」

五　衛生材料廠の社會性

今まで首の廻りに寒氣を感じながらも、實は腹の虫がピク／＼して居た。私は此の話に依つて一札入れる機會を得たので、こゝぞと口を切つた

「全くそうでしたね。こんな場合に個人の資本家の工場では、トテもそんなに社會の爲めには盡せませんからね。」

「そうですとも。そこに行くと材料廠は儲け仕事ではないだから廠の者も將校から職工まで、それは献身的に働きましたよ」

私と伍長氏との會話は次の如く運んで行つた。

「そうでせう。國家の機關に從事して居る人達は、何時だつて國家の爲めに働いて居るから、あのやうな場合には全く戰爭のやうな氣分で一生懸命だつたでせうね」

「實際戰爭氣分です。私等も十日間ばかりは殆んど眠らなかつたんです」

「お陰で助かつた人間は、何處も何十萬もあつたでせう。所でどうでせうね。病氣や負傷で苦しむ者は、地震の時だけではない。殊に稼いで食つてる貧乏人は、ロクに醫者にもかゝれないで死んで行く者がどれ程あるか分らない。例へば、あなたの材料廠で、今度なんか夜も寢ずに働いた職工諸君だつて、若し自分でも家族でも重い病氣にかゝつて御覽なさい。トテも充分に養生は出來やしない。そこでゞすね、あなたの材料廠が地震の時だけで無く、何時も無料で衛生材料を供給して、不幸な國民の爲めに充分骨を折ると言ふ事にしたら、あなた方は何時も今度と同じやうに國民の爲めに盡す事が出來る。國民は何時も今度と同じやうにあなた方の御世話を感謝すると言ふ事になるのでは無いでせうか。」

「それは結構ですね」

「そうでせう。監獄の囚人だつて病氣になれば治療して貰へる。働いてる國民が一度病氣にかゝれば賣藥位しか飲めないなんて言ふ法は無いんですからな。地震のやうな大天災の時でさへ、國民はあなた等のお蔭で負傷や病氣の手當が受けられた。國家の機關が活動して居れば、平生は官吏ら安全に手當が受けられる筈ではないですか」

「そうですね、そうなる理屈ですね」

六　病院と學校

「そこでゞすね、話をも一歩進めて考へて見ると、衛生材料があつたつて、病院が無くちや仕方がない。そこで、國家が大きな病院をドン／＼建てゝ、そこへ今度の材料廠の人達のやうに、國家の爲めに働かうと言ふ人を醫師や看護婦にして働いて貰ふ事にしなければならない。一方では又溫泉なんかを別莊や料理屋なんかの贅澤物に使はないで、みんな國家の物にして置いて病人を送つて治療さすやうにする。そうなつてこそ、昔の醫は仁術だと言つた事も實現するだろうし、立派な博士が居たつて往診料の五十圓も拂へる金持の脈でなければ見ないと言ふやうな間違つた話は無くなる。國民全體の幸福はどれ程進むかわからない。つまり今度の地震後あなた方の力で罹災者が助つたと同じ理屈で國家の力で不幸な傷病者全體が助かる事となる譯ですね」

「そう言ふやうになるが本當ですな」

「今度は、同じ理屈を學校に當て篏めて考へて見ると今のやうに學校が高い月謝を取つては貧乏人の子供はイクラ頭がよくても勉強は出來ない。そこで、一切無月謝としてどんな大學の講義でも頭さへよいものは自由に聽けると言ふやうにするのが本當では無いですか、つまり傷病の手當をするのは消極的で學問の研究を自由にやらすのは積極的だが國家の力で、國民の利益を護ると言ふ事は同じ理屈だねそうぢやないですか」

「それは確かにそうですね」

七　生活要品の社會化

「そうでせう、併し月謝だけが唯だつて、自分で稼いで食ふんでは勉強は出來ないだから自然に、學生には生活費も支給すると言ふ事にしなければ本當ではない。」

「陸軍の學校ではそれをチャンとやつて居るんです」

「そうです、々々、陸海軍の將校學校は一切給費でしたね。ツマリすべての學校をみんなあの通りにするんです。その代り、陸海軍の學校の卒業生は國家の爲めに働く義務があると同じやうに、教育を受けた者は、國家が必要とする限りすべて國家の爲めに働かなければならぬ事とする。そこで、前の醫者の話と結び付けて考へる事が出來ませう。醫者は丁度今の將校と同じやうな關係を、國家や國民との間に持つ事になるんです。」

「それでは丁度、軍醫學校を

出た軍醫と言ふやうな具合ですね」

「そうです。全く陸軍のものと較べるとスグわかる。そこで今度は、も一歩話を進めて考へて見ませんか。初めの衛生材料と同じやうに、すべての國民の必要品、つまり食物だとか、衣服だとか、家屋だとかを、全部國家が造つて、それを必要に應じて國民に支給する事にしたらどうです。今の國民の多數が生活の不安に脅かされ通しだ。誰かゞ無產の國民は自轉車に乘つて走つてゐるやうなものだ。走つてゐる間はいゝが、一寸つまづくと、もうそれ切りだと言つたが、今のやうにすれば、こんな不安からみんな逃れる事が出來るんです」

「併しそれは結構には違ひないが、到底出來ない相談でせう。」

「イヤ、出來ないとは極まらない。之も今度の地震であなた方が衛生材料を供給してゐる一方、國家はバラックを建て、食物や衣類の配給を實行した。又、汽車や汽船も無料で運轉した。それに依つて一時數十萬の罹災者が全く生活を家國に依つて支持せられて居た。つまり、あの理屈を大規模にして全國に擴げ一時的ではなく永久さすんですよ。」

「併し、一時ならこそ、國家は無理の金も使つたが、永久に、それをやらうにも、品物や金が續かないでせう」

「そこで、衛生材料廠が藥品なんかを作る、砲兵工廠が兵器を作ると同じやうに國家が生活用品を永久に造ればいゝでせう」

「そう言へばそうですが、作るに資本がありませうか」

八　生產の二ツの要素

「資本、資本と言ふのは金の意味では無いでせうね。一體物を造り出すには、大體二つの種が要る。一つは機械だの原料だと言ふ物で、他の一つは、勞働者だの技師だの言ふ「人」ですね。此の二つがあれば資本も何も要りやしないが、人は必要に應じて得られる事は、今の軍隊を見たつてわかるでせう。今の軍隊は、本人だけの生活しか保證せられて居ない。若し、家族全部の生活が保證せらるゝ制度の下に國家の必要とする作業の爲めに呼び出され、最近のあなた等のやうに、國民全體の利益の爲めに働くとなれば、誰だつて滿足する事はあなた等自身の經驗から考へたつて解るでせう。だから、職工だつて技師だつて思ふまゝ集るに違ひない」

「言はゞ、鐵道隊の兵隊と將校とのやうな譯ですね」

「その通りです。今度は工兵隊だつて、普通の道路や橋なんかの修繕に隨分働いて居る。半壊の家を爆破した事も一つの生活上の仕事ですそこから家を建てたり、工場の機械を運轉したりするのは、ホンの一步の差です。農業、工業、運輸業、皆それ〳〵の兵隊―兵隊と同じやうに國家の作業に就く人の集團を作ればいゝでせう。」

「それなら、今の被服廠や砲兵工廠を擴張するのと同じ譯ですね」

「そう見るが或は早いかも知れない。被服廠で小供の學校服から、老人の着て寢る毛布まで作る。砲兵工廠や海軍工廠で汽車や織物機械まで作るとなるのも同じ理屈だ。要するに、國家自身が國民の必要品を作ると言ふ事に……」

「イヤ待つて下さい。働くべき人の方は軍隊と同じ呼吸で集るとして、工場だの、鑛山だの、田畑だの言ふ、あなたの言つた種の一方の方はどうするんです。國家は今、そんなものを持つて居ないんですが」

九　地震と私有制限

「さ、それです。君は今度の地震後、東京中の自働車を徴發した事を知つてゐませう。國家が必要と認めた時、假令持ち主が、今夜俺は之に乘つて藝者買ひに行くんだと言つたつて通らない。殊に戰爭の場合はどうです。家畜でも食料でも、國家は意のまゝ徴發出來る。それなら、國家が國民の爲めに必要と認めた時、自働車だろうが船だらうが、鑛山だらうが、工場だろうが或は鐵だの、綿花だの、石炭だのと言ふ原料だろうが、それを徴發するのに誰だつて文句は言はない筈ぢやありませんか。例へば、あなたの働いて居る衛生材料廠で、若し今度の震災活動中に、設備不充分を感じどこかの藥品工場を徴發しなければならんとなつたとする。それに反對する者は、それこそ本當の非國民ではないんですか」

「なる程、だん〳〵解りました。全くそうすれば、國民の生活は不安が一掃される譯ですね。確かに、立派な社會になりますね。そうなるが本當でせう」

一〇　金持の脆弱

私は大體、自分の勝利を見て取つた。そこで議論の方向を轉換した。

「所がどうでせう。こう言ふ具合にやると、金持ちが儲けられなくなりますね。金持ちに取つては困る話ですね。」

「そうですかなあ」

「考へてごらんなさい。若し藥品やガーゼで、地震後にドツサリ儲けやうと思ふて居ない奴があつたとする。――それは又キット五人も十人もあつたに違ひないが――そう言ふ手合から見れば、あなた等の衛生材料廠がどんなにか、邪魔になつた事でせう。それなら材料廠と同じ理屈の活動を、すべての方面の產業に對して國家がやつた時、金持ち

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はこの方面にも儲けやうが無くなる。金持ちから見ればこんな困つた事は無いでせう。」

「それでは、國家の産業が發達しないやうになるのではありませんか」

「それはよく聞く事です。併し。少し考へて見れば、發達しなくなるのは、産業ではなくて資本家だと言ふ事がスグ解るではないですか。早い話が、今のあなたの言ふ通りだとすれば、衛生材料廠が活動すると藥品なんかの衛生材料の産業が發達しないと言ふ事になる。何でそんな事があるものか。それは唯、衛生材料の資本家が發達しないだけだ。言ひ換へれば、衛生材料に依つて儲ける金持ちが發達しないだけだ。衛生材料の生産も配付も資本家や金持ちがやる場合よりも數等完全に立派に行はれて居るのではないですか。併しそう言つたんでは、資本家金持ちの立場が無いから、彼等や彼等の提灯を持つ者は、産業々々と、産業を擔ぐのです。その手を喰つては世の中の理屈はわからない」

「併しですな。世の中には政府や公の仕事ではやれそうにない仕事もありますよ。それ等は矢つ張り個人々々に任して置かなければならないでせう」

「それは、主に生産業一般が幼稚な間の事です。機械の應用やそれに必要な勞働關係の組織が、今日のやうに發達してからは、もう個人々々の特殊の努力は、そのまゝ組織的な産業の中に完全に取り入れられて行くのです。尤も此の邊の理屈は大分混み入つて來るが、大體、今の陸海軍の諸種の工場が、充分の成績を擧げて居る事に依つても、大規模の生産作業は國家の手に作つて完全に行はれる事は證據立てられてゐるのでは無いですか、國家と言ふも社會と言ふも此の場合では同じだが、組織のある集團の力を我々はもう個々の一人の力よりも優れたものと信じていゝでせう。それならば、如何なる重要な産業も、國家の手に移す事が出來るのでありませんか」

一一 エピソードの結論

相手は充分了解したと私は見て取つた。今まで側に居て時々相槌を打つて居た在郷軍人氏も、こゝまで來ると大きくうなづいた。愈々結論に入る時だと考へ、私は、自然に語勢にも一段の力が加つた。

「初めに言ひ落しましたがね今、衛生材料廠の活動したお話から思ひ付いて、私が申上げた理屈が、つまり社會主義の理屈ですよ。即はち國民全體に取つて大切な生産事業を個人々々の資本家が金儲けの爲めにやつて居るのを、國家の手に移して、國民全體の爲めに經營する。社會主義の思想の中心は、言はゞたゞそれだけなのです。」

「ハア、そうですか」(二人と殆んど同時に答へた)

「そうです、全くそうです。」

そこで私はもう餘り理屈は言ひませんがね。大杉を甘粕が殺した事に就て、少し考へていたゞきたい。大杉は世人の言ふ通り、社會主義者だとして置きませう。又甘粕もそう思ふて殺したと言つて居ますからね。それならば、大杉の思想は、結局今お話しゝた理屈だと言ふ事になります。實際社會主義の攻撃に誰でも結び付けやうとするロシアでは今の理屈が最も完全に近く實現して居るのです。クドイやうですが、すべての大産業が衛生材料廠式になつてゐるのです。それだのに、社會主義者と見られた大杉は、何故殺されたのでせうか。それを又愛國者達が何故當然の事のやうに言ふのでせう。その事は衛生材料廠が活動すれば、資本家は衛生材料で儲ける事が出來ない事情に依つて説明されるのではないですか。社會主義は、資本家に取つては敵です。決して國民の賊ではないが、資本家から見れば賊です。そこで資本家は――そら初めに言つたやうに、自分の利益の發達しない事を、國家の産業が發達しないんだと言ひ張るのでしたね――それと同じ呼吸で、自分の敵を國家の敵だと言ふんです。尤も資本家が天下を取つて居る今の國家では、そう言ふ言葉も滿更當らん事もないと言へる。丁度徳川の將軍が天下を取つて居る時には、徳川一門の利益と國家の利益とが常に混同せられ、手前一家の爲にならん事は、スグ天下の爲めにならんと言つたものですからね

その當時の甘粕だつたら將軍を敵とする者は、みんな天下國家の敵だと思つたんでせう世の中の、こうした勘違ひは何時の時代にもあつたものです。尤も此の勘違があればこそ、無理が通つて道理が引つ込む世の中が續くのです。とは言へ勘違ひ程恐ろしいものは無いでせう。今でこそ修身の本に載つた吉田松陰さへ、此の勘違ひの爲めに國家に害を爲す惡黨として首を斬られたんぢやないですか。甘粕なんて言ふ野郎も、つまり幕末の首斬役と言ふ所ですね。そんなゴミみたいな奴には、大した責任もないと言へば言へやうし、それに罪を部下に塗り付けてまで、逃れやう々々と一生懸命モガイて居るんだから、無罪にしてやつたつていゝんだろうと言ふのなら、あなた方の無罪論も條が通りますね。……あ、シャベつてる内に加賀の國境まで來ましたね。お茶でも呑みませうか」

一二 社會主義の普及難

長いエピソードを載せたのは、以下の事を言ひたい爲め

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である。
　私等の先輩は、社會主義思想宣傳の爲めに二十年間の惡戰を續けて來てゐる。限りなき犧牲を繰り返し々々拂つた事も、實は主として宣傳の爲めであつた。此の安價ならざる多年の努力が購ひ得た所のもの、甚だ乏しかつた事は、今度の震災に續いて起つた流言蜚語に依つて曝露した。宣傳の効果が今度進められてゐたら、かの低能大佐の徒が、百や二百口を揃へて叫び立てやうとも、大衆の頭上を一過し去る空つ風に過ぎなかつたであらう。それが、一時の事とは言へ、大衆自身の心臓にひゞき入つたと言ふ事は明かに此の思想の普及の狭隘を語つて居る。
　此の事は、二十年間の宣傳運動の効果の甚だ弱かつた事を證するが、それは主として何に基くであらう。此の長い文章の結論は實は此の點を究明するにあつた。
　社會主義思想宣傳の困難、その原因は大體二つに考へられる。第一は、思想それ自身の本質に基くとの見方である即ち社會主義思想は、容易に大衆の腹に泌み込み難い性質のものであるとの解釋であつて、第二は、說明樣式の非妥當から來ると見るもの、即ち此の思想を說明するに、日本人の實生活と結び付ける事を忘つた爲め、大衆の眼には自分等と直接の關係を有しないもの、如くに映つたのでは無いかとの見方である。
　直截に言へば、私等は後者の見方を信ずる。流言蜚語が社會主義者の頭上に降りかゝつた事が、若し社會主義の本質から來たものであれば、全く前途は暗である。たゞそれが、今まで取つた說明の仕方が拙ずかつた爲めなればこそ新しい生面の開かれる事が豫期せられ、今後の努力のし甲斐もあると言ふものだ。

一三　大衆中への道

　地震に依つて、自分等の孤立を、しみ〴〵感じた社會主義者の多くは、今方向轉換が相談せられてゐる。
　併し、方向轉換の主要内容は、說明樣式の上に於てゞなければならぬ。主張する思想自體の本質上の修正が、若し我々の念頭に上つて來るとすればそれは、最も大きな錯誤に陥らんとするものであらうと思ふ。
　所謂『大衆の中へ』の標語に何人も異存は無いであらう。併し、それは說明を大衆化する事に依つてのみ試みられなければならぬ。大衆自身の實生話の經驗にピッタリ當て篏まるやうな說明の爲めに、絶えざる努力が續けられて行くならば、社會主義思想が本當に『大衆の中へ』泌み入らない筈はない。思想の本流を離れて、大衆が現在抱いて居る要求や情意をそのまゝ自分等の運動の内容とする事に依つて若し『大衆の中へ』入らんとするのであつたら、それこそ恐るべき墮落である。されど、自警團の竹槍を見て今更孤立の哀れさを感じた我々は、大衆戀しさの餘り、動もすれば此の邪道に踏み入るの危險がある。
　自分の孤立を痛感した我々は、今切實に反省しなければならぬ。我々の取つて來た宣傳上の說明樣式は果して大衆の理解を喚び起し得るものであつたかどうか。
　日本の經濟狀態の特殊性、日本人の感情の特質、日本の政治現象の表裏、そのやうな事柄は一切無視して、西洋のパンフレットの翻譯と雜誌の論文のツギハギとを以つて、能事了れりとした生硬極まる宣傳の方法、例へば一千萬の農村青年の心理實情には一切頓着せず、而も農繁期の最中に突如として無産青年デーなるものを直線的に輸入し、麥めしの上にバターを塗り付けてサア之を食へ、萬國の無産青年團結せよ、未來は青年のものだ、ワアワアと言つたやうな、今までの說明樣式の、極めて大きな錯誤を含んで居た事を、我々は今切に反省しなければならぬ。

一四　角と牛とを間違ふ危險

　繰り返して言ふ。さびしき孤立から脫する爲めに、我々の取るべき主要手段は、說明樣式の修正であつて、思想内容の修正ではない。此の事を取り違へては角を矯めて牛を半殺しにする譯である。
　『戰術』と言ふ言葉は屢々屈伏や墮落の顏面塗料に用ひられる。これも、戰術あれも戰術、その内に御本尊の思想主流はペチ野心家やオッポオチユニストの脚下に蹂躪せられる。その危險は今のやうなドサクサの時に特に多い。角直しか牛殺しかの區別さへも、こんな場合には時々付かなくなるものだ。
　地震に依つて、社會主義に關し特に考へさせられた事は之である。（十一、十五福田北原）

甘粕の親戚筋の宣傳

　甘粕狼狽大尉の供述の中に『福田狂二も殺さうと思つたが彼は檢束してくれと憲兵隊へ依頼して來たので、よした』と云ふ事があつたので例のアナキストの連中は鬼の首でもとつたやうに大喜びで福田の所へ『卑怯者』とか『意氣地なし』とか云ふ投書を飛ばした者が二三あつた。
　甘粕の供述を信じ、甘粕と協同戰線を張つて社會主義者の惡口をするとは何んたる見下げ果てた根性だ。恐らくアナキストとは甘粕の弟か從弟の類ではあるまいか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

甘粕大尉と語る

福田狂二

（一）

震災後の九月八日午後十一時床に入り將に眠りに落ちやうこする時、門を叩く者があつた。何者なるかを怪しみながら窓を開けたら「憲兵隊です」こ言つた。澁谷憲兵隊の提灯を持ち入り來たつたのは一人の憲兵大尉こ二人の憲兵上等兵であつた。その大尉は椽側に腰を下し、相對して坐つた。

彼は言つた。『私は澁谷の憲兵分隊長です。お變りありませんか』『有難う、僕の方は別に變りが無い。』こ私は答へ、それから世間並の震災の話などをした。

私は東京市中及震災地全部に亘つてごんな狀態にあるかを彼から聞かうこ考へた。

三日頃平澤や河合などが民衆を煽動したこか檢束されたこ云ふ事が新聞にあつたが事實であるかこ云ふ事も問ふた。彼等は知らないやうな風だつた。鮮人の騷動に關する事なども問ふた。大尉はそんな事は無いこ言つてゐた。

約三十分計り話してから「では御大事に」こ言つて歸つて行つた。私は『御苦勞樣』こ後から云つた。

彼が去つてから、私は門を閉めに行つた。處が彼は自動車に乘る所であつた。車上の憲兵大尉は『立派な男だなあ！』こ上等兵共に話し乍ら去るのが聞こへた。彼等が一二町も行つたかこ思ふ時、再び門を叩く者がある。それは品川署の高等視察係や巡査であつた。『今憲兵隊から來たでせう、憲兵隊へ檢束されるこ云ふ事は警察の落度だからすぐこれから警察へ檢束する』こ言つた。

私は『さう危險でもない、今晩は遲いから明日にしたらごうか』こ言つたが『これは署長の命令なので是非檢束する』こ言ふから私は『そんなら其の用意をしやう』こ、一緒にゐた岡君等こ一行五人で蒲團を持つたりして、遂に警察へ檢束されてしまつた。

（二）

その後十月九日私が鄕里にゐて新聞を見た。私を訪ふた憲兵大尉は大杉榮君を慘殺して軍法會議に附せられた甘粕大尉で、その豫審の供述が新聞に載つて居た。

「大杉の外に堺利彥、福田狂二も殺さうこ思つたが堺は入獄中であるし福田は目下の身が危いから檢束してくれこ云ふ書狀を憲兵隊に送つてゐたので關はなかつた」こ言つて居る。

これは私の默し難い所である、一應辯明して置かなければならぬ。併し事情は極めて簡單で、甘粕の陳述に根據の無い事は容易にわかるこ思ふ。第一、私が既に警察に檢束されてゐる限り、その上憲兵隊に檢束して貰ふ必要も無い筈だ。それから私が檢束を申込めば、それこそ彼に取つて絕好の機會を與ふるものではなかつたか。

私は大杉君の如き肺病者では無い。無抵抗で殺されるやうな事もない甘粕大尉より私の身長は五寸も高い。甘粕大尉が絞めやうこ思つても絞まるやうなやさ男では無い。明治四十一年東京憲兵隊には私を下谷萬年町に捕へんこした、時憲兵が廿人來た。この選拔された憲兵も私に見事に蹴散らされてしまつた。

甘粕大尉のやうな上品な貴公子然たる男、年は老つたらうが私は未だ彼等に殺されはしない。

又豫審廷で彼は『まだやる氣であつたが彼等を殺さなかつたのは殘念だつた』こ言つて居るが、眞に私を殺したいなら、なぜあの夜檢束なり捕縛なりして拉し去らなかつたか。思ふに、彼は始め私を引致する積りであつたであらうそれが椽側で話して居る內に私の何物かに恐れて氣を呑まれ、手をし出得なかつたに違ひない。

私の初め會つた時非常に言語が明晰で態度も立派な人であり社會主義に對しても理解のありさうな口吻であつたから、模範的の軍人のやうに思はれ、又大杉をやつけたこ云ふを聞いた時も、もつこ男らしい態度を取る人だらうこ想像した。それが追々『國士』の假面が剝げかけて來て、切取强盜の鼠賊のやうなあの醜態を見せられ、それが私を殺さうこしたこ聞いて吹き出したくなつた。

久しく軍隊に居つて、一通りは軍人の心理を解る私は、甘粕大尉のこれ等の志士こ違ふ點は分つて居る。彼が命を惜しむのも分つて居る。

昨年浦鹽の武器問題に就いて犧牲こなつた原少佐は軍閥から十萬圓貰つたこ聞いて居る。

（三）

歷史を繙いた時來島恒喜や伊庭想太郞や中岡艮一等の如き實に公明正大な行動をした幾多の志士や刺客を見出す。而して彼の如く、女や幼兒迄殺して公判では部下に罪をなすりつけ醜い口論をした志士は見出されない。

私は敵なりこも褒むべき點は褒むるに吝ではない。而し甘粕に至つては彼の奉ずる武士道にさへ反するものである。實に國士でなくて國恥である

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も醜惡なる刑事々件

甘粕某の陰險兇惡を痛論す——

布施辰治

一

私は、私の自ら正しいと信じた決心乃至決行の信念に絶對の權威を認めて居る、夫れ丈け人の自ら正しいと信じた決心乃至決行の信念にも、又常に絶對の敬意を表するものであるが、近來、信念に依つて決行したと云ふ事件で、甘粕軍人等の大杉榮氏等を殺害した事件ほど、信念の看板に詐りの多い卑怯な事件はあるまい。

一體、このやうな事件の上に見る淺間しさは、自ら正しいと云ふ信念に基かない爲めに、事件の發覺を恐る、決行者の證據湮滅である。更らに其の醜くさは一ト度び事件が發覺した時の共同決行者が、お互に責任をナスリ合つたり抱き込んだりする事であるが所謂甘粕事件の眞相と經過とは、蓋し其の模範的なものであると云ふて良い。

甘粕軍人は、豫審調書や軍法會議の公判廷で國家の爲めだといふ信念に基いて、無政府主義者大杉榮氏等を殺害したと云ふて居るそうであるが彼れの信念呼はりほど怪しいものは無い。

二

最も、人々の信念には、教育程度の深淺、教育方針の善惡は勿論、教育を受けた受けないに拘らず、頭の善い惡いに因つて、精神的にも物質的にも甚だしく混亂して居る現代の世相が、今後果してどう推移するか、そしてどう落ち着く處に落ち着くかと云ふ見透ふしの付くものと付かないものとの間に、非常な事實的客觀的の差異を生じて來るのは、誠に止むを得ない。其處に、人間善性の相互扶助を信ずる無政府主義者大杉榮氏の信念も成り立てば、人間惡性の弱肉強食を信ずる利己主義者甘粕軍人の信念も又、敢て成り立たない事は無い。而かも大杉榮氏の信念と甘粕軍人の信念は、事實的客觀的の相異であつて主觀的の相異ではないとも言へる。

故に、甘粕軍人の大杉榮氏等を殺害した事が、眞に其の信念に出でて生命懸けの決行だとしたら、私は、甘粕軍人の信念決行が、如何に無政府主義と云ふもの、考察に不充分であらうと、又、如何に誤つた觀察の眼を大杉氏等の言動に瞠はつて居ようと、更らに、所謂國家の爲めと云ふその國家觀が、どんな迷信的錯亂に陷つて居ようと、左樣した一切の客觀的批判を加ふる事なしに、矢張り其の信念の尊さに敬意を表する事を吝しまないのであらう。否寧ろ鰯の頭も信心柄と云ふ迷信は却つて單純素直であると云ふ事を考へると、至らざるの信念必ずしも不純ではない、及ばざるの信念必ずしも虚僞ではない眞劍さを認めて遣りたい。

三

けれども、私の敬意を吝しまない信念の決行には、生命懸けの美しさが無ければ爲らない、其の生命懸けの眞劍さには理非を超へた人間眞情の感激が溢れて居らなければ爲らない、更らに左樣した信念の決行に溢れる感激には、其の事の是非如何に拘らざる責任觀念の強さに一身を抛けはした覺悟が無ければならない。

苟くも、信念の決行に出でた事件の發覺を恐れたり、其の發覺の結果に加へらる批判の非を豫想して責任逃避の證據湮滅を計つたり、更らに共同決行者との責任をナスリ合つたり、抱き込み策を講ずるやうな事は斷じて有り得ない。

然るに、甘粕軍人の大杉氏を殺害するに至つた發意から決行、決行から發覺、發覺から責任の批判を加へられようとする軍法會議の經過は果してどうだ。甘粕軍人は無政府主義者大杉榮氏を殺害する事が國家の爲めだと云ふ信念で決行したのだから、自分で全責任を負ふと云ふ事を豫審調書や公判廷で述べたと云ふ事であるが、夫れはドウにもコウにも成らなく爲つてから信念の看板を出して、看板詐欺の責任輕減を計る悲鳴である

甘粕軍人等は事件の發覺を恐れて、始めは殺す氣でも無かつたらしい、同行の伊藤野枝氏と橘宗一少年とを殺害した彼等の心理は、明かに大杉氏の殺害が、其の信念に出でたものでは無くて、變災混亂のドサクサに乘じた組織的な陰險の發意に出でたものである事を物語つて居る、と同時に單に事件の發覺を恐る、が爲に、伊藤野枝氏と橘宗一少年を殺害した彼等の態度は、彼等の性質の如何に狂暴慘忍なものであるかを實證して居る

更らに、其の證據湮滅を計つて三被害者の衣服を剪斷し、遺留品と共に之を遞信省の燒跡に投じたり、死體を古井戸に投じて之を埋めたと云ふ遣り方は、何んと云ふ卑怯の極みであらう。之れがどうして自ら正しいと信じた信念の決行だと云ひ得やう。そんな信念は私共人間の間には成り立たない。

四

が、しかし、若し眞に甘粕軍人等の間に左樣した信念が成立つたとしたら、甘粕軍人等は所謂軍人であつて人間で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はない。然かも、事件の發覺するに及んでは、組織的な事件關係者の餘程多いらしい共同決行乃至決行者が集まつて甘粕、森二軍人を責任者こして出した遣り口に就ては、あまり多く咎めないが、苟くも彼等一團を代表する責任者こして法廷に立つた甘粕、森二軍人がツイに彼等一團の推薦こ自任こを裏切つて、宗一少年殺害の下手人本多、鴨志田平井の三軍人を下へ擴大するこ同時に、本多、鴨志田、平井三軍人が、更らに小泉將軍の命令なりこ云ふ素ツ破拔きを敢てして、上へ擴大するや「イヤ夫れは抱き込みだ」こ云ふて、知らぬ存ぜぬの一點張りをキメて居る醜態は殆んご言語に絶して居る。恐らく近來法廷に現はれた事件で、此の位醜惡な事件はあるまい、又、此の位男らしく無い被告もあるまい。

左樣した醜態百出の暴露を拾收する事が出來なく爲つてから、出した看板詐欺の信念呼はりが聞いて呆れる。甘粕軍人の圖々しさこ迂愚こを笑はるゝのみであらう。

何故なら、自ら正しいこ信じた行爲に全責任を負ふて、他に累を及ぼしまいこする態度には、飽迄自發的な自責觀念の眞劍さがある筈である。然るに、甘粕軍人の大杉榮氏等を殺害した態度には全然左樣した眞劍さが認められない

五

要するに、彼等が如何に大杉榮氏を殺害することが國家の爲めだこ信念したこ云ふても、或者は大尉、又は曹長、軍曹伍長上等兵の現職に在り而かも名を憲兵事務の職務執行に藉りて、大杉氏等を國家造營の憲兵本隊に拉致し、大杉氏等を殺害したことは、眞に國家の正義こ眞理を認めて一身一命を國家に獻けて居るもの、出來ることでは無い。

最も、軍法會議の公判廷で甘粕軍人が辯護人から「子供が好きか」こ問はれて「惡るい子供は憎みますが良い子供は好きです」こ答へたる態度を見るこ、餘程頭の調子が低いやうではあるが、甘粕軍人等の大杉榮氏等を殺害した事件は、客觀的考察の上にも、主觀的信念の上にも、到底斟酌の餘地の無い陰險兇暴な大罪惡である。

赤化宣傳

—ブルヂヨアの—

柴耕介

一

話は四月ばかり古くなるがヨッフェ氏の入京から病床外交の日露交渉の期間に於て、日本のブルジョアがロシアに對して示した最高の敬意こ最大の誠實は大したのであつた

三井大倉鈴木その他のブルジョアの手代共は、拔け馳けの功名を爭ひつゝヨッフェ氏の旅宿にお百度を踏んだものである全國の小ブルジョアの群れは、超ド級の讃辭こ日本晴れの笑顏を崩してヨッフェ氏の身邊にむらがりたかつたのである。

が然し、それらの事はあまり世間へ知られては居らない「過激派に對するブルジョアの降伏」の其の醜ひざまは、明るみへ持ち出されない。曲事こして、新聞の探訪ごもはブルジョアから「珍品」の猿轡を嚙まされてゐたからである。

ブルジョアがかく、自分の迭る秋波を押しかくしたのは少なくこも二たつの理由があつたのである。一こつは「過激派に對するブルジョアの降伏」を露骨に現すことは、彼等の貧賤をきづつけるものであり、且つは無産階級を増長せしめるのは惧れがあるこいふのである。他の一こつはブルジョアジーの陣容の總崩れを立て直さんこするもがきの狂態を敵陣にさこらしめるここの不利を心附いた彼等の深謀からであるヨ。ツフェ氏の前に、伺候した彼等の笑顏こそ、歐羅巴のブルジョアジーこ同じく、經濟界の行き詰り資本主義制度の崩壞を、あらはに示していたが故に、彼等はそれをひた隱しに隱さんこの魂膽に外ならなかつたのである。

二

その後ブルジョアは、第二の策戰にこりかゝつた。「ブルジョアの赤化宣傳」は即ち其れである。即ち中間階級を味方に引き入れて、彼等が黑幕にて釆配をふるひ、國民外交の名によつて、ロシアこ修交を結ばんこする、實は「過激派に對して降伏」せんこする運動であつて、ロシアの實狀を中間階級に宣傳するこごである。それ故にヨッフェ氏の退京前後に於けるブルジョアの出版した宣傳書は警視廳に山の如く積まれてあるが、それらには過激派こはバルチザンの事ではなく政黨の事であつて其の政黨は新進學者の結社であるなご、些かこそば痒いほご持ち上げてゐる。

朝鮮銀行は勞農憲法を「人民の權利の宣言」こ題して出版しやうこしたこも傳へられる。同銀行の公刊した極東露國經濟施設一班には「此の國には貨銀鐵則の理法は行はれず、勞働者の保護こは勞働者自からその意志を實行するここである」なご、無産階級國家の福音を極めて大膽に紹介したものである。之れらはほんの例であつて「ブルジョアの赤化宣傳」は益々猛威をふるふの狀態に在る。

かつて米國に於て米國共産黨が第三インターナショルの第二大會議事錄を印刷して宣傳せんこしたが、印刷費が無く當惑してゐる折柄、ワシントン政府の印刷局は之れを公刊して無代で配布してくれた

（以下十四頁へ續く）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無產青年に檄す（十篇）

（1）

農村青年に與ふ

岡部完介

僕等が時々田舍に行つて思ひも懸けない農村青年の間に來るべき新社會の形態をはつきりと摑んでゐる人々を見出し、心潜かに愉快を禁じ得ない事があるが、農村大衆としての小作人は大部分小作關係の不公平だけを視てゐるに過ぎない。恐らく小作條件の改善を目的とする小作爭議は數年のうちに日本全土にあます所なく波及するであらうけれども其跡に何を殘すであらうか。今小作運動に期待する所多き人々を裏切らなければ良いがと思ふ。現に小作爭議の爲に出來た小作組合は五割乃至三割の小作料輕減に成功した後、跡方もなく崩れて仕舞つたり又は完く鬪爭意志を失つた互助機關として殘つた例をしば〳〵みる。

◇

小作組合は、當然小作關係の當事者である小作人の戸主を以て組織せられる。從つて組合員の大部分は相當の年配に達してゐる人々である。殊に其幹部は小作兼自作農である場合が多いから小作組合の思想は甚だ微溫的なものに墮ちやすい。彼等といへども小作條件の輕微なる改善を以て滿足するものではあるまいがそれ以上になほ一回轉することは困難な事情の下にあることを認めねばならない。茲に農村青年運動の必要と農民組合に對する農村青年の使命とがある。

◇

僕は農民組合に對する農村青年の使命職分を組合の對內對外的二方面から考へてみやうと思ふ。先づ農村青年の組合運動に於ける對外的職分は第一に組合の擴張運動であり組合組織必要の宣傳であることは云ふ迄もない。第二には組合擁護のために、時に組合の危機に臨んで其の最前衛に立つて物理力をも用ひねばならぬ事である。第三には官製青年團の撲滅である。官製青年團は往々農村青年を去勢して從つて組合の鬪爭的、階級的素質を弱める事がある、彼等は飽くまでも組合の敵であり、農村青年の墮落機關である。

◇

尠くとも現在の小作爭議は單純なる小作條件改善の運動である。然しそれは本質的に何時までも其處に止るものでない。やがて小作制度の否定に進み、運動の方向に進むものであると思ふ。其處に進み得ない限り現在の小作組合は總て全く壞滅し去るか、又は協調的な互助機關として殘るに過ぎないであらう。小作組合をして本來の面目を發揮させるために、幹部を鞭撻して思想的訓練をするのが農村に於ける青年の組合內部に對する第一の任務である。青年は其の鋭い感受性と何物にも拘束されない頭腦を以て現在の社會制度、小作關係を有りの儘に見極め小作人の最後の進路を定むべきである。

僕は小作組合の思想的訓練について特に左の三點について考へてみたいと思ふ。

一、小作運動は小ブルジョアを作る運動でない事

二、小作組合と政治運動

三、都會勞働者と農民並に社會××と農民の地位。

◇

農民の土地に對する執着、土地を私有したい慾求は傳統的執拗さを持つてゐる。資本主義的精神が農村に浸潤してから更に輪をかけて强烈になつた。一應無理もないと思ふ然しよく考へてみれば、吾々は勞働力と勞働する意志とのある限り土地を繼續して耕作する事が出來ればよいのである。それ以上完全な私有權を要求するのは惡い慾である。

小作運動が現在の制度の下に於て自作農たらんとする運動に終るならば、小ブルジョアの運動にすぎない。假に凡ての小作人が自作農になり得たとしてもやがて再び、今日の小作制を復活し、今日の紛擾を繰り返すにすぎまい。土地は萬人のものである。之を最もよく耕作するもの、手に完全な耕作權を保持せしめればよいのである。小作組合運動をして無意義なる小ブルジョア運動に終らしめないために、此の點を深く理解する必要がある。

◇

農民は都會勞働者よりも、政治機關に近き易い地位にある。小作人と雖も政治的施設の如何に依て直接に利害を得る事は都會に於ける勞働者の比でない。例へば道路の改修にせよ、鐵道の布設にせよ、又は水利の問題の如き、戸數割の賦課の如き、直ちに小作人の頭上に關つてくる所謂政治問題が甚だ多い。從つて小作人は政治機關を利用する必要上、既成政黨者流の誘惑に乘り易い事明かである。殊に相當の年配に達して目前の實際問題にのみ眼を走らし易い小作組合の幹部は、惡德其の者である政治家の好餌に釣られて能眞なる無產階級の意識

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を鈍らす事はよく見る事實である農村青年は現在の政治組織の實體を明かに看破して、此の弊に陷らしめざらんとその組合の幹部を牽制する必要がある。

◇

都會の勞働者と農民とは利害相反するものであるから、小作人は都會の勞働運動と提携する事は出來ないと云ふものがある。皮相的に觀察すれば、多少の利害相反する事があるかも知れない。けれども些細なる職業的利害の如何を以て、小作運動をして都會の勞働運動と全く別個の運動とするものであれば、それは吾々の社會をより良くする運動でなくて職業的一團の私利を圖る利慾の運動である。都會の勞働運動も農村の農民運動も目標は唯一つである。無產階級解放のために新社會を組織する事即是である。兩者の敵も亦同一物である。即都會と農村を通じて資本家階級の一團即ち此れである。今農民運動と都會の勞働運動と直接の提携をしないのは唯便宜上の事にすぎない。兩者は腹の底では眞の兄弟である事を忘れる事は出來ない。

◇

窮極は農民運動も都會勞働者の運動と同一步調を採るものであるが、社會××に於ける農民の地位は都會の勞働者と少しく其の趣きを異にする處ある事を豫め理解しておく事が必要であると思ふ。都會勞働者は××の運動に於て最前衞の任務に當る。農民は地方的に其の同じ任務を帶びてゐる事大體に於て同一である。唯農村は思想的に都會に比して常に一步遲れて行く事實を見逃す事は出來ない。農村大衆の思想は、最後の日に於ても恐らく都會勞働者の思想的自覺も數步の距離があるであらう。そこで、何處の國でも社會革命の或る時機に於て、農民は新社會組織の或る程度の障害となつた。新社會の新しい組織の運用は結局其の時の農民の思想的理解の水準にまで引き下げられた。之は止むを得ない事實である。然し之を逆に見れば、農民の思想的訓練の過程は直ちに都會勞働者の運動を牽制し解放の最後の日に於ても新組織の實際上の運用は農村大衆の思想的階級に於て決定される點に於て甚だ重要なる特質を有する。

農民運動は或意味に於て結局下積の運動であるとも云へる。併し其の運動の重要さは以上の如くである。利いた風な事を云ふ反對宣傳者は農民運動に向つて都會の勞働者の革命運動の道具に使はれてはならないと云ふ。間違ひも甚しい。寧ろ却つて農民は都會の勞働者を其の手先に使つてゐると云つてもよい位である。

農村の青年は社會改造運動に於ける重要なる特殊の地位を自覺し、來るべき日のために、都會の勞働者と相提携して、決して自ら侮らない事を希望する。

同志川崎君逝く

◆

川崎悳次郎君が、肋膜で半死した。それから二日たつた十四日の日、市ヶ谷へ、その屍體引取りに行つた。三十人ほど、牢屋の裏門のところに集つた。

「大逆事件の時も、この門から、棺が運び出されたのよ。」さう堺の奥さんが感慨深さうに言つた。

やがて、扉があいて小いさな棺が、荷車に乘つかつて出て來た。棺のフタがとられた皆が、それを取りかこんだ。青白い顔。切れの長い目。きりつこしまつた口唇。ありし日の悳ちやんの顔であつた。

女達は、袂で目を押さえた菊の花や、柿が棺の中へ入れられた。悳ちやんが好きだつた黑のハンチングが、やせた膝の上にのせられた。棺は赤旗で包まれた。そして、ガタ〳〵とゆれながら火葬場へ進んだ。皆、無言で、そのあとにつゞいた。

夕燒が赤くしてゐた。

「さいだんの、なきがらは、うらみをのんで、ねむる……」

誰かがくちずさんだ。

二十三を一期として死んだ彼れは、聰明な勇敢な若い革命兒であつた。(岡)

一寸氣づいた事

地方の讀者諸君から毎日のやうにその地方の狀況を通知して貰ふのは大變嬉しいが、時々「俺達の團體はこんな大計畫をしてゐる」とか「目下大團體組織の準備中だ」「我々の戰術は斯くの如くである」など 云ふやうな事を「進め」へ載してくれと賴んで來る人もある。

今や無產青年の運動は震災當時のあの孤立無援なる狀勢に鑑み、下らぬ自己宣傳や賣名を捨て、實質的、潛航戰的手段を採らなければならぬに立ち至つた。新團體組織の準備や大計畫は雜誌などで天下に知らしめる必要は毫もないと思ふ。發表したなら直に警戒の網が張られ何の活動も出來ぬ筈だ。

私は地方でかうした賣名の結果何も活動が出來なくなつて、警察の目を光らせ、地方新聞の名物男に終つてしまつた人間を時々見る事がある。その地方に於て、さう云ふ先入主を作つた爲め「社會主義運動とは賣名的のものだ」と云ふやうに見られ新進の同志が出來た際も運動が難しい事が往々ある事と思ふ。

産業の發達して居らぬ地方の青年運動は仲々困難だ、この難事業を背負つて立たれる同志諸君は切に愼重の態度をとるが肝要と思ふ。(橫田)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

宗教に走らんとする青年へ

平林初之助

宗教に走らんとする青年諸君！

私は諸君によびかける。諸君の道は誤つてゐるけれども諸君の動機の中には正しい何物かを見出すことが出來る故に、私は諸君によびかける。

諸君は眞理を求めてゐる。諸君は正義を求めてゐる。諸君は平和を求めてゐる。そして諸君は求むるものをたずねて宗教に走る。吾々が求めてゐるものも眞理であり、正義であり平和である。然るに吾々は宗教には走らないで戰ひに走る。どちらの道が正しいか。換言すれば、諸君と吾々との求めてゐる眞理、正義、平和は宗教の中にあるか戰ひの中にあるか、この點を私は諸君と共に冷靜に研究したい

諸君、吾々は、この問題を檢査するに方りて吾々の推理をできるだけ正しくするために、疑ふべからざる一つの事實から出發することにする。疑ふべからざる事實とは、何かそれは、吾々が階級闘爭と呼ぶところの、利害相反する人々の間に於ける闘爭である。諸君はこれを階級闘爭と呼ばなくともよい。けれども、絶えざる同盟罷業、勞働爭議、小作爭議によりて現はれてゐる闘爭の事實だけは認めねばならぬ。諸君は此の闘爭を偶然の出來事、困つた出來事として、それとは全く無關係な別のところに、即ち宗教に社會生活の眞理と、社會的正義と社會的平和とを探さうとする吾々は、この闘爭を必然的の出來事として、この闘爭そのものゝ中に、この闘爭を解決する力を見出さうとし、且つ見出してゐる。その力とは無產階級の創造力に外ならぬ。

この第一步に於て既に吾々の道が正しいことがわかる。何となれば、吾々は不安定な現實生活を安定にし、闘爭せる社會を平和に導き、不公正な社會生活を公正にする力を現實生活そのものゝ中に認めるが、諸君は、それを神にまかせてしまう。吾々は利害と利害とが反目し、意志と意志と力と力とが對峙してゐる限り闘爭によらずしては、社會的平和、社會的正義の實現が不可能なることを信ずる。諸君は雲をつかむやうな宗教にこれが解決を一任する。

諸君、諸君は人類愛を主張する。吾々も人類愛の理想を忘れたことはない。けれども吾々は階級制度の儼存は人類愛と兩立しないといふわかりきつた事實を直視する。ところが諸君は階級制度の修羅場を、そのまゝ、人類愛の敗地にする。吾々は先づ闘ふ。諸君は先づ蜃氣樓をゑがく、吾々は不公正をとりのぞくために戰ふ。諸君はたゞ目をつむつてこの不公正を忘れ、現實を逃げてしまふ。

そこで吾々の役割と諸君の役割とは鮮明になつて來た。諸君は社會的平和を冀ひながら社會的不平の持續をたすけてゐるのである。現實を無視することは現實を肯定し、これを維持することゝ同じであるからだ。それればかりではない。階級社會に於ては宗教そのものが、支配階級と恐るべき結托をなし、被治者階級に搾取同盟を結んでゐるのである。基督はローマの暴政に虐げられたユデアの民の戰士であつたかも知れぬが、基督教の歷史は支配階級の虐政史であつた。親鸞は貧民のためにたつたかも知れぬが今日の親鸞は支配階級とその寄食連が無產階級に與へる目つぶしであり阿片である。人類愛を唱へる牧師僧侶は政府の補助金と人民から絞りとつた貢物とで戰勝祈禱をする。勞働者に忍從の德を說きながら、支配階級のために國際戰爭組織的殺人の宣傳に犬馬の勞をおしまぬ。

宗教の階級的性質は明白である。その弊害の最も甚しいところでは所謂政敎分離が第一の手段であるが、無產階級にとつては、政敎分離はほんの第一步に過ぎぬ。凡ゆる旣成宗教の殘骸と、階級戰の切迫につれて生じて來る僞かざりのメッキ宗教とから、完全に無產階級の觀念を解放することが必要である。現實生活に一切の解決を期する無產階級にとつては觀念的逃避場たる宗教は必要でない。無產階級の唯一の宗教は無宗敎でなければならぬ（八月十四日）

生れ出でんとする パンフレット

▽先きに本誌八月號に於いて廣告した通り『或る立場から』なるパンフレットが、北原龍雄執筆で、世に出る筈であつた。所が、此たびの震災のためあはれ流產した。

▽その代りに、同樣な月刊が近く『政治運動研究』の名で生れる筈だ。

北原龍雄、岡陽之助の兩君が主に書く。

▽菊版十六頁、一部十錢といふ小さなパンフレット。發行所は東京市赤阪區溜池二番地少數社。

▽聞く所に依ると、少數社は『政治運動研究』の他に、時に應じて謄寫刷の小册子を作つて、大いに『要路を戒め』るといふ。兩人ともに、意氣昂然たるものがある。

▽同志諸君、幸ひに、愛讀を賜へ。『進め社』で取次をする。

（廣告係）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

組合運動者諸君に訴ふ

赤松克麿

一

僕も組合運動の一兵卒として、組合の驥尾に附して仕事をして居るのだから、組合運動者に與ふなど上段に構へて物の言へる義理合ひでもないのであるが、併し廣く無産階級の戰線の全面を綜合的に見下してみる時、組合運動者の心すべきことに就いて、多少感ずる處が無いではない。

組合運動者には動もすればサンヂカリズムの偏見に陷る危險性があることに注意しなければならぬ。勞働組合は、資本主義、眞の虐遇を受けた筋肉勞働者が、生産機關を中心として組織した戰闘團體である。勞働組合は勞動大衆を抱擁し、教育し、組織して行くには最も適當な機關である。勞働組合は知識階級の思想團體と違つて、階級意識が本質的に鮮明であり、彼等の團結は強固であり、彼等の戰闘意識は深刻である。かくの如き事情からして、組合運動者が無産階級の全戰線の中に於て特に重要なる部署を占めて居るといふ一種の優越感を抱いて來るのも亦自然といはねばならぬ。しかも今日、我國に於て勞働組合は無産階級の公然たる戰闘機關として存在し得る殆んど唯一のものである。唯一といふことが語弊であるとすれば、其の最大のものであることは明かである。社會主義同盟の如き、社會黨、共産黨の如き、無産階級を全部的に包括する戰闘團體の存在は許されないのである。

二

勞働組合が無産階級の全戰線の中で重要なる部署を占めて居ることは勿論である。併し此の組合重要論が一轉して組合萬能論になつた時、組合運動者の社會革命に對する正しき理性は逆上する。そして癒え難きサンヂカリズムの病弊に囚はれるのであるサンヂカリズムは勞働組合の直接的經濟行動のみによつて、決定的勝利を獲べきことを主張する。そして其の鬪爭の舞臺は飽迄生産機關である。勞働組合のみが戰闘機關であり、また新社會の組織單位であり、生産機關のみが鬪爭舞臺であり、經濟行動のみが戰闘行動である。

無産階級解放の行程に關する最も正しい見解からすれば勞働組合は全無産階級戰線の一部分であり（重要部分ではあるが）解放戰の第一步は政治行動であり、鬪爭の舞臺は生産機關のみではなく、最も重要な最も決定的な鬪爭舞臺は街上である、代議士選出の投票場が決戰舞臺でない如くに、生産機關も決戰舞臺ではない。ストライキは無産階級の動員であり、訓練であるがストライキ自身が決して根本的解決の力を有するものではない。トロツキイは『ゼネラル・ストライキは無産階級と其の反對勢力との公然たる決戰の序幕としてのみ重要性を有する』と云つて居る。

三

組合運動者は、勞働組合の經濟行動を、政治的に價値判斷しなければならぬ。從つてまた勞働組合そのものを、政黨的に、價値判斷しなければならぬ。無産階級の政黨及び政治行動の本質を十分に理解した上で、勞働組合の正しき部署組合運動の正しき意義を會得しなければならぬ。此の意味からすれば、サンヂカリズムの臭味を脫し切れない組合運動者は、現在抱いて居る組合意識よりも更に一段と高い集團意識に目覺めなければならぬ。そして其の高い集團意識に對する綜合的見地に立つて、其の重要なる構成分子としての勞働組合の立場を理解しなければならぬ。

組合は無産大衆の最も有力なる戰闘機關の一である。併し組合は萬能ではない。最高組織ではない。組合運動者は、主觀的優越感に囚はれないで常に其の眼界を擴大し、正しい針路を辿る必要がある。

【◆】岩手無産青年社の誕生

岩手縣は今年の春あたりから新しい氣分が脉々と起つて來た。

共産黨事件で多くの東京の同志が擧はれたり高尾君が殺されたりした就いて地方の同志の憤起が愈々緊要となつた

八月下旬民衆社地上巡禮社及牧民會の一、二人を除く外縣下の同志が殆ど團結して『岩手無産青年社』を起した。

會員は印刷工や職人が多くて新聞に自分の行動を廣告する賣名の徒や智識階級振る者のゐないのは喜びとする處だ。やがて組合を起す機會も早晩到着するであらう。

それが震災で東京の出版從業員組合やその他の同志が澤山歸つて來たので、益々力強いものになつた。そして毎月二回宛研究會を開いて熱烈な研究と底力のこもつた宣傳をしてゐる。そして研究や討論の題目は『明治維新史の研究』『岩手縣の歷史の過程』『共産主義の原理』等である事は面白い。

事務所は盛岡市花屋町沼宮内五郎方だ。近く機關紙も發行するから、雜誌の交換や旅行中の同志の訪問を希望する。（岩手緑川生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

安月給取青年に與ふ

新井友三

今度、東京の支店詰めになつた相だね。『こゝは文化の中心だし、研究や何かに都合がいゝ』と云ふ君の喜びを察する。ところで『この頃はリッケルトを讀み、劇の研究をやつてゐる。傍ら勞資問題にも注意を拂つてゐる。然し勞働階級の反議會主義には賛成が出來ない』には恐れ入つた。君はなか〳〵忙しい生活をしてゐるね。僕なんぞ下宿屋に四十圓、電車代に六七圓拂つてしまへば、跡に何にも殘らぬ。それに君はリッケルトをよみ劇を研究し、傍ら勞資問題に注意する！これが現代の文化生活つて奴だな。成程僕らにはとてもやり切れないほど忙しい多方面な生活だね。その上夏服も二着は要るし、靴は何時も白く塗らねばならず、音樂會にも出なくてはならないし、海水浴にも――。

然し君が尙ほ學生時代の情熱を失はず、勞資問題に注意をしてゐるのは、僕の如き醜惡なる階級鬪爭に從事してゐるもの、多とするところだ。

だがこの問題は一體誰の事だらう。君は勞働者と資本家が遠くで爭つてゐるのを煙草を吹かして眺めてゐる樣だね。併し、そのいづれにも屬せず公平無私なる國家の中堅たる中間社會の君は、かゝる非文化的な爭ひを解決しなければならぬ！そのために君はリッケルト研究の傍ら勞資問題に注意してゐる！

然し一寸待つてくれ給へ。君の文化生活の要素たるライスカレーやミルクセーキの米や牛乳は誰が作る？君の居る銀行ではどんなことが行はれてゐる？そこへ行く電車は誰が作り誰が動かしてゐる？小百姓は生涯君等のために米を作らねばならず、運轉手は年取つても電車から下りられず。反對に君の銀行の株主は避暑をしながら配當を受けてゐる。そして君自身株主のために算盤を彈いて月給を頂いてゐる。君は重役や支店長に脅威を感じないか。君の『文化』生活は彼等の手に握られてゐないか。君のみならず、小使も同僚も重役の顎一つで上つたり下つたり、してはゐないか。これは一體何故だ。

勞資の問題は單に工場と社長室の唯物的な醜爭ではない。それは君の飯と着物と電車と銀行を包括する大きい社會問題だ。この社會の組織を根本的に變革して、一切の生活狀態を變へようとする大問題だ。君はその見物人でなくて、その中の人だ。それは君の生活を直接間接に支配する問題だ。君等は工場の勞働者と等しく賃銀の奴隸ではないか。少し許り多くの收入を得てゐるが要するに奴隸だ。奴隸として何時までも、頭を下げてゐるか、人間として解放されるか。これは勞働者のみならず君自身の問題だ。

中產階級は國家の中堅なりなんて嘘の皮だ。國家の權力は御氣毒だが君等の手中にあらず。君らが如何に氣張つても幽靈の踊に過ぎぬ。資本家は君等を名義上の中堅分子、健全分子と祭り上げて、實は己が好むまゝに操つてゐるのだ。吾々は支配者か被支配者か、主人が奴隸か、雇主か雇人か、そのいづれかに屬する。社會はこの二大陣營に分たれ、社會の勢力はこの兩極に結集しつゝある。そしてプロレタリアは自己を解放し、同時に人類を解放するために、この歷史的使命を果たすために、今や必死の戰線を敷きつゝあるのだ。

何時までも頭を下げて株主に從ふか、敢然としてプロレタリアの陣營に投ずるか、この間君の採るべき道はない。文化、リッケルト、音樂美術、こんな惡夢を拂ひのけて君はこの現實の事實を直視しなければならぬ。そしたら『反議會主義には賛成しない』などといふ、中間階級特有の元氣のない灰色の概念は、忽ち飛散して、君は勇敢な階級意識に覺めるに違ひない。直接に資本家の搾取に面せざるものは、資本主義社會の眞相が分り難い。從つて明確な階級意識が起らない。殊に君の如く多少の餘裕を持つて、ブルヂヨアの環境に住む者はさうだ。ブルヂョアは巧みに、文化生活や自由戀愛やリッケルトで君の心を奪つてしまふ。君は現實の生活から遊離して、下らぬ。概念の世界を彷徨するのだ。君は現實感を失つてしまつて、夢遊病者のように哲學とか文藝とかいふ、ありもしない世界に伴れて行かれるのだ。君らの多くはその眞空世界で自滅してしまふ。假令僅かな者が現實に歸つて來ても、その多くは卑怯者だ。彼等は自己の特權（爪の垢程の！）とブルヂョア的享樂を捨て樣とはしない。個人主義の亡靈が深く喰ひ込んでゐる。君等はその惡靈をも拂ひのけねばならぬ。

現實に歸れ！君の地位の絕望なるを見よ。個人主義の亡靈を拂つて、プロレタリアの階級に投じ給へ。之が僕の手紙の結末だ。

（九頁の續き）

ので共產黨はブルジョアの赤化宣傳に拍手喝采したことがあつたが、日本はまさに其れである。彼等がロシアに對して示さんとする最高の敬意と最大の誠實は遂ひに赤化宣傳にまで到達するに到つたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

職業婦人に寄せる

権藤せい子

職業婦人諸氏！

私は、斯う一口にお呼びして見て、今更のやうにこの種の御婦人の多種多樣であることを思はずには居られません實に宮中奉仕の女官や堂々たる學校長から一女工又は朝々納豆を賣り歩く老婆まで、それらの一人にちがひありませんから。しかし私は今そんな一般に職業婦人と考へられて居ない樣な、高貴な方々にお話をするのでは有ません。私は極めて大多數な、所謂職業婦人、即ち自分の勞力を金に代へて生活して居る人々に對してお話申したいのです、實に私自身も亦、無産の一職業婦人で、其小さい勞力を賣つて細々とした生活を營んで居る一人でございますから。

實に母系制度か父系制度に取つて代つて以來、婦人の隷屬的な生活は長い長い年月でありました。そして其隷屬の生活から覺めて婦人の自由を叫び、經濟的獨立を求めて職業につかうとした婦人、それは實に少數な幸福人達であります。大多數の婦人が家庭から職業へと押し出されて來たのは、そんな自覺と云ふよりも、もつともつと『已むを得ない』原因なのです。

產業革命後、資本主義制度の勃興は日一日と無產者を壓迫して來ました。即ち機械の發明によつて、今まで熟練を誇つて居た職工は多く其必要を失ひ、單なる機械の番人として、不熟練工や幼年工と肩を並べる地位に引下げられ、加ふるに時を極つて襲ひ來る生產過多の經濟的恐慌は、彼等にとつて最も恐ろしい失業の不安を持つて來ました。

殊に資本家は、出來るだけ賃銀の低廉を欲して、成年工のそれを引下げるばかりでなく、より低廉なる少年工と女工とを、日に月に多く採用することになつたのです。又それを被雇者の側から云ふと彼等の生活はもはや、主人一人の收入では支へきれなくなつて、其燃眉の苦しさにはそれが自分自身の賃銀に大きい影響あるにも拘らず、其妻や子女を工場へ送るやうになつて來たのです。斯くして婦人は家庭から、否でも職業の方へ出て行かなければならなくなつたのです。

これは單に工場勞働者だけでは有ません、事務員しかりタイピスト然り、婦人記者然り皆賃銀の低廉なる故に女子は多く採用されてゐるのです『唯だ婦人なるが故に賃銀は男子の半分で働かねばならぬ何と云ふ不都合な事であらう』と斯う、少し自覺ある婦人の職業者は叫んで居ます。全くさうです、實に不都合です職業婦人は常に結束して、能率均等の賃銀を要求すべきです。けれどもそれをする前になすべき重大な事を、私どもは忘れてはなりません。その最も甚大な事を忘れてはいかなる熱心な運動も遂に失敗に終りはしないでせうか？

職業婦人諸氏

私ども婦人に、妊娠、分娩育兒と云ふ三つの生理的任務がなかつなら、男女の地位はどうなつて居たでせうか？

太古の社會に、母系制度か父系制度にとつて代られたのも、婦人のこの三つの任務を男子に利用された爲です。人類繁榮のために最も重大なこの生理的任務が婦人にとつてはどうすることも出來ない弱點となつて男性に隷屬を强られたのが手初めで、婦人は身體も意志も弱々しいものとなつたのです。

自己の富を蓄積する以外に何の考へももつて居ない資本家たちに、婦人の生理的任務を理解せよと望むのはあまりに見當ちがひの要求ではありますまいか？たゞ今の制度のもとに男子、均等の賃銀を要求するのは、實に彼等をして婦人の生理的任務を理解せしむる、唯一つの途なのです。

それならば『先にすべき重大な仕事』とは何でございませう。先づなすべき事、それは、長い間奪はれて居た生產機關の奪還です。

今や餘儀なく家庭から工場に鑛山に引出された職業婦人の大群は、無產男子と等しく直接に被搾取者として資本主義の下に苦しんでをります。男子勞働者に對しての些々たる不平と反感を捨て去つて、相共に當面の敵に向はふではありませんか？男も女も手を携つて、唯一の敵に向ふ戰の第一線に立つ者は、職業婦人でなければならないのであります。

其報酬を化粧料と裝身具とに費しうる享樂的職業婦人や搾取されてゐる事も考へず飼主の前で尾を振る犬のやうに僅かの金をくれる資本家の恩をたゝへる奴隸的職業婦人を除外して、私どもは團結しませう。そして男子勞働者と提携して、一日も早く奪はれたものを取返へさうではありませんか

そこにのみ、私共の生活のたゞ一つの輝きと誇りとは見出されるのであります。

糸川君の危禍

本社橫濱支局の糸川二一郎君は震災當時救濟發團と云ふものを組織して罹災民救助に盡力したが如何なる風の吹き廻しか先日强盜罪の名の下に收監されてしまつた。保釋出獄を待つて本社は相當の手段をとる積りだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

震災が社會運動へ與へた影響

資本の集中とデモクラット運動

赤松克麿

一

震災の與へた影響に就いて我々が第一に考へるのは、社會運動の背景を成す社會組織就中經濟組織の變化である。我々は震災が、小商工業者に大打擊を與へることによつて必然に、資本集中の趨勢を飛躍的に促進したことを否むことは出來ない。內地小工業に就いて之を見れば、資金運用の潤澤を缺くために、小會社は大會社に併合される傾向にある。最近、三井物產、鈴木商店等が、土木建築事業を計畫中とのことであるが、元來三井や鈴木はブロカー業をなすものであつて、むしろ材料の供給によつて一部の手數料を得たに過ぎないものであるが、今度は進んで一個の工業會社として事業の擴大を計りつゝあるのである。往年、桑港の震災の折も、小會社が自滅して、大會社が勃興し、小量生產より大量生產に移つた事實があるといふ。今回の震災に於ても、群小の小會社が淘汰されて事業が大會社に集中されて來るのは當然の事實である。

貿易の方面から之れを見れば、震災前に於て、小會社や個人商店は、多く大會社と取引上の連鎖を有し、唯だ特別のものに限つて、輸出入貿易の際、個人の信用狀によつて銀行から融通を受け、取引を繼續して來たのであるが、震災後は、信用狀の效果がなくなり、金融關係は杜絕し、取引を停止しなければならない破目に陷つた。また外國會社と雖も、取引が極めて不安であるから、多年支店又は出張所を有する大會社とのみ取引をするやうになるから、小會社や個人商店の外國取引は茲に一先づ杜絕の狀態となつたのである。從つて比較的大資本を擁し、各方面に金融の自由を有する大會社が漸次勢力を扶殖して、小會社の領域を蠶食する傾向にある。

二

火災保險の問題がヤカましいが、資本家政府が低利によつて援助し、一割の見舞金を支拂ふとすれば、會社によつては資本金以上の借入金をしなければならぬ。かくの如きことは商法の規定に反するので、強いて之を行はんとすれば、商法を改正して資本金以上の借入金を差支なしとしなければならぬ。斯ういふ事情の下にあつて、小會社は倒產しないまでも、營業が繼續して行けるものではない。其の結果は、小會社は自然に大會社に集中されてくるやうになる。

今度の震災で、大資本家が營業事務所を燒いて、一時活動の機能を中絕したものがあつても、それは一時の氣絕であつて、實質的の打擊ではない。彼等は少し秩序が回復すれば、直ちに息を吹き返して有力な活動を開始することが出來たのである。そして雜兵共の倒れた後に行つて、その勢力範圍を擴大するのである。

三

右に述べた如く、資本が集中すれば、中產階級の下層分子乃至無產階級の仲間が增加する譯である。從つて階級對立の形勢は、一層明確になつてくる。社會運動の背景は益々運動精神を醱酵する要素を濃厚にしてくるのである。一方に於て、地震の動搖裡に成立した山本內閣は、進步的官僚內閣である。彼は普選を斷行するらしい。普選を斷行すれば、必ずやデモクラシイを基調とする民衆的政治運動が非常な勢を以て進展して來るに相異ない。そして政界は、派閥、大ブルヂョアに對する急進デモクラツト進擊によつて、大きな渦卷を起すであらう。震災後の社會的變化は此の政治運動に力強い刺戟を與へるだらう。無產階級運動者の任務は、此の政治的形勢を達觀して、最も巧妙に最も有效に、之れを利用して無產階級の戰線を進めて行くことである。震災と社會運動に關して、感ずるところは多々あるが最も感を深うするのは此の問題である。

朝鮮勞働同盟會の移轉

脛に傷もつ落武者は、風に動く千草にも心ひかれる。心定まらぬ者には、瓢簞も化物に見えて、之を斬りつける。何年かの昔、何とやらの美名の下に、日本は朝鮮をブン取つた。無理にひつたくつた。それ以來、日本人の腦裏深く刻まれた記憶は『俺等は、奪つたんだ。いつか取りかへされる』といふ事であつた。それが、日本人の朝鮮人に對する無意識の豫感であつた。それが、此度の大地震に於ける流言蜚語の源をなしてゐはせぬか。

此度『朝鮮勞働同盟會』は大阪に移轉して、宋章編、金突破兩君等が、機關紙を發行して大いに活動するといふ奮闘を祈る。

普選を促がした地震

國領五一郎

一

私はあの恐ろしい天災に直接遭つたわけではないし、その後の現狀も親しく見たのではないのだから、それがどの程度の恐しいものであつたかは、新聞の報道や、寫眞や或ひは當時を語る罹災者の話に依つて大體を想像するより外に仕方がないが、それ丈でも非常に物凄かつたと云ふ事は充分わかる。地震の最中、多くの人々は只自分や自分達の家族の生命を天災のために奪れまいと、それ以外の問題を考へる餘裕がなかつた位、現場は慘憺たるものであつたと云ふ事は何人にも首肯の出來る事である。

ところが其時、數百萬の人々が自然の暴虐に對して極度に懼れ怖き、互ひに自分達の體を地震と火災の魔の手から遁るべく、必死の努力をなして居た。其時、支配階級の戰慄すべき××が遂行されたのであつた。

吾々はあれ程の大變動に當面して居ながら、尙自己の社會的立場を忘れずに、充分な用意と計畫の下に、其なすべき最善の事業を遂行した支配階級の態度に、今更ながら敬服せずには居られない。

二

ところが騷ぎが追々鎭つて來るに連れて、惡事何とかの世の譬で、倒れた家の下から或ひは人形使ひの意の儘に自由自在に踊らされて居た、アヤツリ人形の口から少しづゝ事實が露れ始めて來た。一度出した尻尾を失敗つたとあわて、引込めやうとしても、最う遲かつた。美事に尻尾を捉まれた狸は、不用意にもウマク化け込んで濟して居る仲間の事迄ベラ〳〵白狀してしまつた。

是れを、虐殺された人達と同一の利害關係にある者は勿論承知しやう筈がない。けれ共、ドサクサの鎭つたからには面倒だからと云つてそれ等の連中（無產階級）を同じやうに今一度手輕に處分するには、周圍の事情が甚だよくない。

更に破壞された搾取機關を速かに復活させて二度利潤を產み出させるためには、尙更今一度ヤッツけるてな事は出來ぬ。仲間の虐殺に憤慨して居る連中の——無產階級の絕對的助力なくして破壞された生產機關の復活は望む事が出來ぬ。支配階級はハタと行止つた。けれ共それ位の事で參つて失ふ程の彼等ではない。古狸には、古狸に相應した智惠がある。

「諸君は我が愛すべき帝國のため、震災に依つて破壞された凡てのものを一日も早く再建せねばならぬ。斯くの如き重大なる任務を有する國民は今日、階級の差異だとか利害の衝突だとかを考へて居るべきではなく、擧國一致を以つて此大事業に參加すべきである！」

そして其擧國一致の魚釣針の先には「普選」の餌がブラ下げてあつた。かくして、天變の地震が、意外にも人爲の「普選」を促進した。

三

普通選擧と云ふ餌が、何の程度迄無產階級の大衆を引き付ける力があるか何うか、と云ふ事は今日の處では未だハッキリ知る事は出事ぬ。けれ共從順な勞働者や農民が相當に或ひは多く此餌に釣られて行くかも知れない。

與へられた選擧權を棄權するにせよ、利用するにせよ現在、組織を有してゐる無產階級の團體は此問題を捨てゝ置くわけには行かぬ。

日本勞働總同盟は、普選實施後の議會に對する態度を決定するため、其研究機關を設けて、今後每週一回位の審議會を開く事になつた。

そして既に關西同盟會は十一月四日其第一回の會合を開いた。

是れと前後して其他の勞働團體や小作團體も何れかに態度を決すべく動き出して居る中には早くも態度を決定して運動に着手して居るのもあると傳へられて居る。

普通選擧は關東の震災の有無に關わらず、必ず一度は日本にも實施されると云ふ事は確であつた。然し其期日が地震のために、多くの人の豫想を裏切つて早く當來したと云ふ事は、私のみの推測ではないと思ふ。

普通選擧が必ず日本の社會運動に何等かの變化を來さしめるものとしたならば、其機會を早めた震災は、普選を通じて日本の社會運動に大いに影響を及ぼすわけである。

或る小作人の便り

俺が村にも普選熱が盛んで變な團體が出來上つた。そいつらの牛耳を握つてる奴等は大抵、中學卒業の、宗教、文學なんどの生噛りつと相場が極つてゐる。筆が立つ。おしやべりが出來る。それを利用して、歯の浮くやうな感念論の羅列さ。內觀だ。反省だ。深刻さ、いかさま御當人は、深刻な思索振りを示すつもりらしいんだ。ちと血の氣の多い奴になると、永井、中野等の代議士をかつぎまはつて、一角青年政治家になり澄してゐるその小面憎さつたらない。こいつらの行く先きは、人道主義、自由主義あたりが、落ちさ。俺達とはまるで、根底も方向も違ふんだ。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

時評

普選を前にして

一

山本、後藤等が、内閣を組織すると傳はるや、世人は寧ろ之を迎ふるの形があつた。山本は昔、シーメンス事件で大穴を明けて國民憎惡の的となつたが、今日では、そんな事がかへつて、何か思ひ切つた事がやれるといふ期待を人に抱かせる。後藤が永く政界の所謂惑星と稱せられ、近くはヨツフエを露西亞より招くなど往々その行動が人の意表に出でる。兎も角も此の連中ならば、何か小氣味よい事がやれ相である。こんな所で彼等が案外に衆望を絡ぐ。それほど今日、我國の民衆は諸情勢の停滯に倦んでゐる。それほど、長堤を一氣に決する底の大斧鉞を渴望してゐるのである。

謂ふ迄もなく、諸情勢の停滯は、我國の資本主義の停滯に因る。無産大衆は經濟的向上に絶望し、眼を、政治に轉じ、その批判に進むを當然とする。

二

かゝる際に、現政府は普選を飽迄も斷行するの決意を示した。民衆の希望は自ら、普選に懸からざるを得ない。素より冷淡なのもあるが、その多くは、現狀に滿足し、未だ普選要求の程度にまで至らぬ人々である。さすればいづれはそこまで昇つて來べきが豫想され、先づ普選は民衆の要求と見られ得る。

私等は初めから議會そのものに利用價値しか認めない。從つて、普選そのものに絶對的價値を認めるのでは勿論ない。けれども普選の實施は資本主義牙城への第一步であると信ずる。而して、今日の我國無産階級の經濟事情は決して一城を拔き得て永くそこに偸安することを許さない。一城を得て、又一城を望むは容易に豫想し得る所とする。こゝに至ると、普選にもまた自ら重大な意義がある。或人は普選は革命精神を鈍らしめると說く。が、革命精神とは何を意味するか疑問に屬する。

五六人のアナキストが一室に集り、革命歌を高唱して昂奮するの心理を言ふのでもないとすれば、戰術の問題になつて來る。戰術は國家的の特殊事情乃至は展開する時局に依つて創生さるべきものである。獨逸あたりで革命が議會主義に『墮落』したからといつて、直ちに普選を毒藥のやうに嫌惡する程、飜譯崇拜に陷つては仕方がない。

三

普選實施の後社會運動の之に對する態度には恐らく棄權說と議會侵入說との二派があるであらう。棄權說は徹頭徹尾、議會否認を標語とする。若し此の標語がよく大衆の勢力を集め得るものとせば、それは正に無産階級政治運動の本流に出ずるもので議會にとつては致命的の大打擊であり、ブルジョア國家權力を根底から動搖せしむるものであり、私等はそこに革命的風雲を看取することが出來る。けれども問題は目前に在る。かゝる好都合な狀態を即今に期待することは不可能である。

私は議會侵入說をとる。而も議會攪亂を目的とするのそれではなく、立法運動を主張する乃ち無産階級政黨に依つて、合法的に無産大衆の利益を主張し、よし一步でも利益を獲得せんことに努力すべきであると考へる。その事が必然に攪亂運動となるのは自ら別問題である。併し、議會の機能は改良的効果を擧ぐるに止まるものに過ぎなく、一方大衆の政治的要求は突發的なる革命の殺到に集流するものとせば、議會侵入は必然に議會攪亂となるであらう。

四

私等の最近、耳にする所に依ると代議士の急進派或はリベラリストと稱せらるべき人々によつて所謂第三黨が企圖されてゐる。かの革新俱樂部の、舊材に新裝を凝し、徒らに革新振るが如くば知るべきのみであるが、思ひ切つて新政策をグイ〳〵斷行し、その揚言の如く、既成政黨を徹底的に蹂躪し、ステート、ソシアリズムにまで押し進む腹があれば、その勢力はけだし侮り難いものであらう。

凡そ階級鬪爭を素朴的に考へれば、ブルジョアとプロレタリヤとは明らかに敵對せる二陣營である。けれども、私等は、敵陣を前にして神經を尖がらせ昂奮するよりも先づ相手の陣立をさぐり利用するの圖々しさを必要とせぬか。曾て私等が敵視してブルジョアと呼んだ陣列はしかく單調ではない。互ひに相戰ふ分子の錯綜せるを見るのである。乃ち官僚を背景とする政治勢力は必ずしも大ブルジョアの力と合し得ず、小ブルジョア政治勢力の明らかに大ブルジョアの勢力に逆襲するの傾向を示すが如きがそれである。されば、無産階級の新興政治勢力が、大ブルジョア政治勢力に當面する場合、その革命行程に於いて他の諸勢力と方向を一にすることなしとせぬ。かゝる必然的一致の場合、之と提携することは無産階級の勢力を增す上にむしろ巧みなる戰術とすべきである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今假りに、小ブルジョア急進派の第三黨が樹立され而もそれが、大ブルジョアの本丸に向つて攻大鼓を打ち鳴らしその外濠を埋めんとするならば、私等は宜しく之と合すべきである。

五

利用さるゝ、ことを恐るゝものがある。利用するかされるかは力の問題である。こちらに力のない場合、利用さるゝ事もないとは云へぬ。けれども之を歴史的に眺むれば、かゝる小ブルジョアの利用が果してどれほど、無產階級の解放を阻害し得るであらう。若し彼等にしてそのピチ・ブルジョアの立場を固守すれば結局は、勞資兩階級のいづれからも敵視さるゝの時期が必然に來なければならない。何故ならば彼等は、兩階級の介在群に過ぎずして、所謂ブルジョアの壞滅と共に壞滅すべき運命を有つのである。乃ち彼等が勝利の一歩は、遂ひに墓穴への一歩を意味するのである。されば、無產階級は其の勝利のために、一時彼等の勝利を助くるもまた一策でないとせぬ。それを今更利用さるゝを恐れて俺達主義の塔に立籠るのでは、歴史的必然に立脚すると豪語は出來ない。

革命は觀客相手の國技館の華相撲ではない。いさぎよく負けるよりもむしろキタなくとも勝たねばならぬ。革命の語に醉ひ、藝術化して感激する詩人の運動は最早、警視廳の建物と共に、此度の地震に依つて崩壊された筈ではないか。(岡陽之助)

資本主義下の地震

一

今回の震災に依つて與へられたる社會的命題は三つある。(一)は失はれたる富を如何にして再生產するかと云ふこと(二)日本と朝鮮との關係は今後如何なる方向に進んで行くかと云ふこと。(三)は日本に於ける近代的二大社會群たる紳士閥階級と無產階級との對立戰は、今後如何に展開して行くかと云ふこと。以上の三つである。

二

(一)の失はれたる富を如何にして再生產するかと云ふことは、それは大した問題ではない。何故ならば資本主義經濟組織後半期の必然性として日本に於ても今日社會生產力は餘つて居るのである。そして其結果として却つて不景氣なるものが醸されて居るのである。この餘つて居る生產力を運轉せしむる時は、失はれたる百幾億の富を再生產することは決して難事ではない。そしてそれは一轉して景氣恢復の所以にもなる。

勿論そこには、如何にして震災地に購買力をつけるか、と云ふ問題はある。資本主義經濟組織の下にあつては、社會の一方に緊切な消費慾望があり他方に生產力が餘つて居つても、その消費慾望に購買力が伴つて居なければ、生產力の運轉即ち生產活動を見ない何故なれば資本主義の下に於ては、生產は直接消費のためではなく剩餘價値獲得のためであるから、商品として賣れないもの即ち剩餘價値の實現し得ないものは生產されないからである。購買力の缺乏は餘つて居る生產力の運轉を喚起しない許りか、ぐずぐずして居ると進んで更に生產を緊縮する。隨つて更に失業者が出る。失業者の增加は取も直さず購買力が益々減退することである。此處に資本主義の自動的自繩自縛の作用があると云ふのだ。

これをどうして行くかゞ資本主義經世家の見物と云ふものである。けれ共經濟原理學的に言へば、元々社會生產力は餘つて居るのだから、金融の調整さへ巧みにやるなら失はれたる富の再生產の問題は決して難事ではない。皮肉にも地震が景氣の道を拓いて呉れたのだ。資本主義の社會では時々戰爭や天災を必要とする。

三

而るに(二)の朝鮮民族の問題に至つては、今度の災害の爲め殆んど取返しのつかない問題を惹き起した。凡そ今度程軍國主義的國民敎育の効果の現れたことはない。

自然科學の諸事實がフラスコの中や望遠鏡の内に行はれるが如くに、一九二三年の震災の日本はその關東八州に渡る實驗場の中で、一つの社會科學的事實を證明した。それは「軍國主義國家の存する限り××××××××」と云ふ事である。(以下十行削る)

四

(三)の日本今後の階級戰は如何なる開展を來して行くかは、甚だ廣い問題である。

私は社會革命は突變的變化に依つて來されべきものであると云ふ說が、徐々的變化に依つて來されべきものであると云ふ說に比して、より科學的根據があるものとは思はない。

私の考へる所では、それは結局その時の環境に依ると思ふ。支配階級が物理的力を以て臨んで來る時は、被支配階級は矢張り物理的力を以て反撥するであらう。それは丁度人類の環境に應じて道具を發明して來たと同樣な法則が働くのである。

社會運動の過程も亦、此の法則に依つて說明される。要するに、物理力は物理力で反撥するより他に方法は無い。(石川準十郎)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

火焰！銃聲！半鐘！竹槍！

—同志竹下が襲はれた夜—

横田忠夫

震災後の流言が、我々の頭上に渦を卷いて來た時の思ひ出である。單なる物語りとしてゞなく、種々の意味を暗示する文章として之を載せる。

九月二日も暮れんとする、五時頃大森方面の半鐘が一齊に鳴り出した『海嘯が來る！』と云ふ叫び聲があちこちに聞えたかと思ふと附近の假小屋の人達も一度にどよめきだした、もう大森の方に逃げ出した女子供もある。

私達も大森の八景園へ避難しやうと思つてゐると大森の方から白鉢卷をして襷がけで腰に日本刀をブチ込んだ男が自轉車でやつて來た。そして『大森の方から朝鮮人が澤山押し寄せて來たあ！、女や子供は逃げろ、男は刀か竹槍をもつて出てくれい。もう大森の町端れで戰が始つてる』と叫んで通つた。

近所の假小屋では女や子供は悲鳴を揚げ乍ら駈け廻る。續いて『朝鮮人がこの際日本人を皆殺すつもりなさうだ横濱へも東京へも火をつけたのは鮮人だ』『大森で拔き身をもつた鮮人が五六百人來て火をつけたり物をとつたり大變だ、在鄕軍人や青年團は敗けさうだと云ふ』『もうそこ迄來た』など、近所の人が右往左往に駈け乍ら喚き立てる。

進め社の同人も驚いた。『鮮人が來るとは嘘だらう』『何かの間違ひが大きく云はれてゐるだらう』『どうしても噂は信じられないね』など、言つてゐるうちにもう附近に人がゐなくなつた。

時々青年團や在鄕軍人は斷け歩いて武裝して下さいと云ふ。

同人は皆で『先づ竹井の一家を安全な福田の家へ預けて僕等も一緒に警備に加はらう鮮人が暴れる筈は無いが』と云ふ事に一決して、福田宅へ向つた。その時はもう薄暗くなつて東京と横濱の空に段々凄い赤味を帶びて來た。

道には屈强の若者は手に手に白刄や竹槍や鳶口などを持て鉢卷をして外へ出てゐる通行の人達をじろ〳〵見てゐた福田の家へ着いて竹井の家族を休ませたら細君と婆さん許りゐた。そして福田は今近所の體育會の生徒に頼まれてその中隊長となり鮮人の暴動説の眞疑を確めに大森方面へ行つたと云ふ、こゝで竹井は家族を守りに福田の家へ殘り、岡、松並及私はそこいらを步いて樣子を見た。竹下は福川の後を追ふと言つて南の方へ駈け出した。これが後の不幸を呼び起したもとは神ならぬ身の知る由も無い。

三人が立會川停留所の附近を步いてゐた時は日がすつかり落ちて暗かつた。或る家の塀に何かビラが張つてあると思つて見ると『鮮人數百名大井町各所の井戸に毒藥を投じて逃走せり、今夜大集襲來せん』と書いてあつた。東海道へ出るともう澤山の青年團と在鄕軍人がてんでに竹槍や日本刀をもちがやがやしてゐたすると一人の男が駈けて來て『今ガス電氣會社の廣場に鮮人が五百名許り押し寄せて來て青年團と對峙してゐる。何か要求をしてゐるらしい』と云ふ。三人はそこで『そんなら一つ私達がその間を調停して騷動を未然に防がなければならぬ』と云つて進め社へ歸らうと思つた。そして福田の家へ來ると竹井が今體育會へ行つて聞くともう鮮人は散々敗けて逃走したから心配するなと警官が言つてゐたから進め社へ歸らうと云ふ。又ばあさんや子供を背負つて進め社の方へ急ぐと道の四辻には青年團が關所をこしらへてゐて一々通行人を誰何したり懷中電燈で顏や服裝を調べてゐて。私達も五丁許りの間に十何回許り調べられた。

進め社へ歸つて假小屋へ竹井の家族を休ませ岡、松並、竹井と私は矢張り前の四辻で夜警をする事にした。竹下は多分福田と行動を共にしてゐるだらうと思つて氣にもとめなかつた。

私がふと發送簿をとり出さうと思つて蠟燭をつけて社內へ入つたら布團から行李から書棚迄まるで亂暴な家宅搜索の後のやうになつてゐる許りか硝子や襖も散々破られてゐた。これは不思議、何者かゞしたかと氣づき急いで三人の所へ駈けつけたら岡・松並、竹井の三人は五六人の竹槍をもつた男と聲高に話してゐた。竹井が私の顏を見ると『おい君、こゝに何か怪みのある奴が入つて來て塀を乘り越えやうとして却てこの邊の人達に殺されたさうだ』と云ふ。見ると集つてゐる人は皆近所の人達だ。私が『それは赤化防止團の奴かも知れぬ。バカな事をした』と云ふと三人も聲を立てゝ笑つた。

近所の人達は互に『俺がその男が塀を乘りこえて入らうとした時引づり落した』『俺がこの日本刀で頭を切つた』『俺がこの竹槍で臀を突くと三寸許り竹槍が入つた。これこの通り血と肉片がついてゐる』など、云つてゐた。

そこへ又新しい一人が來て『進め社へ鮮人が一人逃げこんだので皆で殺した。確に鮮人だつた、海岸の方で人を三人許り殺した奴だ』と云ふ私達は何が何やら解らなくなつた。そこへ又隣りの家の人が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

來て私達へ「あなた方大變ですよ、こゝで殺されたのは進め社のあの若い人なんです。

私はちやんと知つてゐます。裏と表の門をあけやうとしても錠がかけてあつたので入られぬと思つたか塀を乘り越えやうとしたら皆が刀で切る、竹槍で突く、可哀想に私等がどんなにとめても殺されちやつたんですよそれから皆で中へ入つて鮮人がゐるかと散々探したのだ」と云つた。

私達はあつと驚いた。暫らくは聲も出なかつた。人相や服裝や前後の行動をよく聞いて察するとどうしても竹下らしい。私達と別れてから何か用があつて歸社したが立會川へ避難の時、門を錠を下して行つたので塀を乘り越えて入らうとして殺されたのだと思つた。私等の目は見る〳〵血走つた、齒を噛みしめてブル〳〵と慄えた。「あゝ、あの若い同志の竹下が民衆の爲に殺されたか、何んと云ふ事だ、殘念だ。」と四人は潸然と涙を流して手を握り合つた。

その時はもう附近に刀で切つたとか竹槍で刺したと云ふ男は一人もゐなかつた。

私達四人は大地にドカと腰を下して何も云はなかつた。

時はもう十時か十一時、東京と横濱の空は血のやうに眞赤だ。

大井、大森の半鐘はひつきりなしにガンガンガンガンと鳴る。山！川！と云ふ合言葉が時々聞える外に人の聲がしない、ドン、パチパチ、と云ふ銃聲が絶えぬ。法螺貝の聲、喇叭の聲が聞える。忍びやかに歩く人々は竹槍や白刄を提げてゐる。

折柄火事の煙も薄いだが稍滿ちた月が皎々と私等の眞上に照り出した。波の音が高い。ウワ！、ウワ！と喊の聲が遠くで或は、近くで起る。

「あゝ、竹下が」と四人が時々云つて後は默してしまふ。

その時三十間許り離れた濱の家と云ふ料理屋の前で「鮮人だ！」と云ふ叫びと共に黒影が飛ぶ、と毆る音がする、四人も駆けつけたらもうその男は死んでゐた。

突然濱の家のねじり鉢巻をした番頭が竹槍高捧げて「日本勝つたあ！」と云つたら五六十人がこれに和して「萬歳！」と叫んだ。

「あゝ竹下は殘念だつたらう民衆の前衛となつて戰つてゐて却て民衆に殺されるとは、あゝ、しかしこの際自重が肝要だ、どうやら鮮人の噂も嘘らしい。立會川附近でガス電氣の所に五百人許り鮮人が白刄を振りかざしてゐたと云ふがガス電氣の廣場にはそんなものも見えぬ。まあ形勢を見やう」と云つて前の場所で夜警してゐた。私がブラ〳〵と附近を歩いてゐたら一人の大きな男が來ていきなり私の前に立ち塞がつて「おい君はこゝの者か」と云ふ「さうだ」と云つたら「こゝで今日鮮人が澤山集つて君等と騷動の相談したさうだ。どうか」と云ふ。私は「そんな事はない社會主義者と云ふ者はこんな時こそ皆と一緒に働くもので民衆の利益に反するやうな事をする者ぢやない。」と云つてふとその男が何か白いものを持つてゐると思ひ見れば三尺計りの白刄を提げてゐる。私は「おい君達バカな噂が廣まつてゐるよ。來給へ」と云つたら三人が集つて來た。そして皆で辯解した。附近の者も澤山集つて來た。時々遠くで「社會主義者を殺してしまへ」と云ふ凄い聲がする。どうやら辯解が利いて竹槍白刄は歸つた。

私達は「今夜は命を持てないね。よし殺されるならこの進め社の前で死なう」と云つて前の場所に四人並んで腰かけてゐた「福田はどうなつたらう」とも心配した。

五人十人と隊伍を組んで歩く竹槍は一々進め社の前で「あゝこゝか」と云ふ、私達は出て辯解して「そんなに疑ふなら入つて調べ給へ」と云ふと中には入つてドシ〳〵調べる者もあつた。

そのうちにこの火焔と半鐘と銃聲と竹槍と悲憤の涙の一夜もそろ〳〵白み初めかけた。隊伍を組んで歩く奴も少くなつた。竹井の一家をいたはつたりしてホッとしたら今度は五六十人鳶口を持つた消防隊がどつと駆けて來て矢庭に社へ入つて調べ出した。結局何も見出せず緣の下や便所も見てゐたが私達の方へ來て一人一人の首つ玉をつかまへて「おい社會主義者、鮮人をどこへ隱した」と訊問を始めた皆で辯解したのでこれも引上げて行つた。

間と松並は品川警察署へ行つて竹下の死骸を見て來ると云つて出た、暫く經て歸つて來たが「やられたのは矢張り竹下だが命は助かるかも知れぬ傷は頭と腕と膝とその外無數だ。今警察で手當を受けてゐる、福田へ寄つたら鮮人が騷動を起し大森の方から來ると云ふので體育會の生徒をつれて行つて見たが大森へ行けば川崎の方へゐたと云ふ川崎の方へ行けば横濱だと云ふ全然無根だと思ひ歸つて來ると立會川の邊ではまだ大森だと云ふ、そんなわけで鮮人騷ぎは嘘だと言つてゐた」と云ふので漸く愁眉を開いた。

三日は天氣がよく東京、横濱の煙も鎭まつた。

表門の前を見ると血が一尺四方計りゴッタリと流れてゐる竹下がやられた跡なのだ。

飯を食ふ間にもちよい〳〵竹槍や鳶口が來て覗いて行く九時頃品川署の刑事がドカドカと來て立會川の福田を初め竹井の一家迄悉く檢束された

× × ×

北原は一日の夕方から茅ケ崎へ行つてゐなかつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

九個の死屍

あゝ龜戸事件

大正十二年九月四日——苟くも日本の無產階級運動に心を寄せる者は、何人も此の日を忘れてはならぬ。勤勉なる勞働者として少年の日より工場の片隅に生ひ立つた人、勇敢なる人類解放の鬪士として無產階級運動の第一線に汗を拭ふ暇もなかつた人々は、此の日、後ろから巡査に依つて縛られたまゝ、前より軍隊に依つて刺殺せられた。

我々は今、腹の底から湧き上るが如き憤激の心を漏らそうとするのではない。

それも勿論言はなければならぬ。言葉を盡し、力を極めて言ふべき時も何れ一度は來るであらう、併し、今こゝに言ふとするは、此の殺戮が現在の法規より見ても、明かに不法であつた事である。

この事件に就いて自由法曹團は左の如く發表してゐる。

一、龜戸警察署に檢束せんとして拉致したる理由曖昧なり。

二、警察署に拉致連行中に於ける處置背戾なり。

三、警察署に拉致連行したる後の留置戒護に關する警察と軍隊との責任關係は不明なり。

四、留置戒護中に於ける各被刺殺者の動靜、取調の有無判明ならず。

五、被刺殺者に不穩の言動ありたりとするも何人が刺殺の止むを得ざる急迫の事ぎを認定したりやの責任明かならず。

六、警察當局が豫め刺殺を決定して其の實行を騎兵聯隊の應援に待ちたるものか？若くは習志野騎聯隊の實行者が自ら刺殺の止むなき急迫の事情を認定して之を實行したるものなるか頗る不明なり。

七、直に刺殺の止むを得ざる非常手段を實行したるものとせば急迫事情の具體的事實明かならず。

八、刺殺實行者の數に被刺殺者の數の關係被刺殺者が留置場に自由を束縛せられ居たる事實。

刺殺の一齊に實行せられたる事實に依れば斷じて被刺殺者等に不穩兇器の言動ある筈なきに拘はらず兇暴の言動ありたりと云ふ理由明かならず。

九、直に刺殺の止むなきに出でたる實行なりとせば、刺殺後の合法的始末を講ぜざる可からざる筈なるに拘らず敢て刺殺後に於ける軍隊の屍體放置に關する理由明かならず。

十、警察に於ける死屍の不法燒却に關する殘虐は證據湮滅の爲めならざりしやの疑なり。

十一、九月四日の出來事を十月九日迄隱蔽し居りたるは刺殺實行の大罪惡を非常混亂中の名目の下に行ひたる疑あり。

尚また、自由法曹團が九人の刺殺されたる前後の行動に對してその眞相を發表した。

「各被刺殺者が、非常突發の震災に驚愕したるは素より一般人と同一にして、やふやく一命の無事なりしを幸ひに、倒潰家屋の掘出し取片付、避難者の手助け及荷物の運搬、炊出し及夜警の助力知人の見舞、並びに救助等に奔走し殊に河合氏の如きは、震災當時所在の麻布區新堀町十一勞働組合社より龜戸の自宅に歸る途中、上野附近に於て、倒潰家屋の下より三人の幼兒を救助し介抱して公園に野宿したる程の人情美を發揮したる事實あり……」

自由法曹團は更に種々の方面より、精細に事實を指摘し「峻嚴敏速なる、司法權の活動を望む」と決議した。

當局がそれに依つて動くかどうか。

聞けば微罪不檢擧と云ふ法則があるとか、勞働者九人の生命が奪はるゝ位の事は、たとへそれが犯罪であらうとも或は彼等にとつて無視すべき微細事であらう。

我々の言論の自由は狹い、これ以上の發言は一切差し控へて置く。そうして。かの悲報を初めて得た時の憤激の心を永久に冷まさぬやうに努めやう。

勞働者大會と官憲暴行應戰演説會

龜戸事件に就いて日本の勞働階級も愈々默する事が出來ずその暴行に應戰すべく十一月二十日午後六時半より總同盟關西同盟會及官業勞働關西同盟會の主催の下に大阪中ノ島中央公會堂で勞働者大會及官憲暴行應戰演説會が開催された。

先づ勞働者大會は宣言及決議が可決され續いて、辯護士布施辰治君及南葛勞働協會の佐々木新君の刺殺當時の詳細なる説明があつた。

議案の審議に入り

全國に亘つて一般民衆に支配階級の暴虐を徹底せしむる事

各國の勞働組合に檄を飛ばす事

虐殺されたる人々の遺族を救濟する事

各政黨に大會の宣言決議を送附し無產階級の意志を表示する事

社會運動犧牲者の爲めに九月一日を期して招魂祭を施行する事

等を決議した。

演説會に入つて各組合の代表者十數名の熱辯が殆ど中止を命ぜられ十一時近く閉會した。

尚演説會は二十三日は神戸に廿五日は京都に開催された。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

遠朋近友

◆

九月一日、東京、横濱を中心とする關東一帶が、大震災によつて殆んど全滅したこの報が我々を驚かした直ぐ後に朝鮮人の暴動、社會主義者の煽動說が起り、震災地を遠く離れた我が地も、あらゆる流言蜚語が全郡を席捲した。そして社會主義者に對する種々なる流言蜚語の結果は亦必然に吾が自由青年聯盟に對して種々なる風說を投げた。

『下伊那の主義者數名は、東京へ××の應援に出掛けやうとして停車場で檢束された』やれ朝鮮人どうのかうのと興奮した民衆はあらゆる臆測をめぐらしたのである。そして氣の早い所では、消防隊の夜警まで始めた。

警察の神系も亦必然に過敏ならざるを得なかつたのだらう同志に對する警戒の嚴重さには全くあきれるの他はなかつた。

全郡を席捲した流言蜚語の未だ靜まらざる九月二十四日我が自由青年聯盟は創立發會一ヶ年紀念日を迎えた。當日は總會を開催し、來り會する者七十餘名、本部、支部より提出された提案を討議し、討議終つて數名の同志の演說があり大盛會裡に散會した。尚大會は本部提出の規約改造案を可決し、今後更に熱烈なる意志と團結の力によつて、我等が運動の進展を計ることを力說した。

其後、大杉他二名の殺害事件、南葛勞働會鬪士等が、軍隊の手によつて刺殺されたこと等、主義者に對する迫害の報道は我等を憤激せしめたが、言論の自由は、我等にあり得なかつた。

斯うした混亂を他にして一方次第に民衆の意志を誘引したものは、山本内閣の普選問題であつた。

震災以前、中野正剛來り、震災後に於ては尾崎行雄、永井柳太郎等が來つた。斯くして社會主義者に對する種々な風說も影を潜め、政治問題に民衆は誘引されたかの感がある。然しこれすら、何時まで續くかは疑問である。大衆は流れてゆく。

下伊那の青年運動は、震災前も後も何等の變りはない。然し我々に一つの疑問がある先づ普通選擧が實施されるものと見る。實施されば勞働黨も組織されるだらう。其の場合に於ける我等の戰術如何!即ち我等は如何に進む可きであるか。これに對しては中心地方からも自ら輿論が生ずるに違いない。亦我々として考へなければならぬ問題である。兎に角、震災を期として運動の形勢に變化を生ずるのではなからうか。

(信州羽生三七)

◆群馬縣下同志檢擧について◆

今回の大震災に依つて俺達は直接に間接に莫大の影響を蒙つたのである通信機關の杜絶は單閥!官僚の反動的宣傳に最も好機を與へたのである人心恟々たる時流言蜚語は各地に一齊に起り共厄に會つた一つが本縣下同志の一大檢擧となつたのである。自警團の爲についに富山落をした藤田悟氏に俺達は同情をするものである。一度藤田氏の行衛不明と共に大檢擧の手は廣まつたのである。九月十七日多數の同志は家宅搜索を受け書類を押收され同時に各管内の署に檢擧された。

藤田悟、高津渡、川村恒一尾池眞弓、小林邦作、岩丸波太郎、吉田鋼十郎、小林文朗細谷又二、田村榮太郎、梅澤佐藏、三好德次、關根悅朗、等の十數名である。當局は一大陰謀の名の下に新聞記事を差留暗々裡に大活動を起したのである。かくて十月七日小生及小玉嘉一、松本英子の三名家宅搜索をされ同時にひつぱられ高等課長次席山浦市三の爲に取調を受けたが一同一時歸宅を許された。十月十四日には私が檢事局に召換され班組織について終日檢事の取調を受けたが歸宅を許された恐ろしい大陰謀事件とかやらは洗つて見ると治安警察法違反秘密結社の組織と出版法違反との罪名の下に幾人かやられるだけらしい。今は藤田、高津、川村、尾池、田村、梅澤、三好小、林邦作及市ヶ谷刑務所に收容されて高崎に護送された町田等にて、其他の同志は皆歸宅を許された。

(十一月三日新井勝兄)

青森青年同盟

青森青年同盟は今回組織された。中心の事業にあたる無產社の同志は血みどろに戰つてゐる。官憲とブルの迫害に呻吟しつつも我等の任務は遠くて重いことを自覺してゐる

(弘前、大澤久明)

横田兄

地震のドサクサで、同志が四散した。實に寂寥にたえない。「進め」は大阪で旗擧する相な。待ち焦れてゐる。ブルの宣傳機關の完備した時、こつちでも早く砲門を開かなくちや。僕は、再擧策無く、久しく逡巡といふ形だ。「進め」はドコ迄も共產主義で押し進むべきだと思ふ。所謂レベルを引きさげろといふのは、どんな意味か解らぬが、雜誌には思想戰の使命があるんだから、プリンシプルは、血の如く鮮明でありたいと思ふ。(略)

東京にて丙之助)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯後記

■突如として飛んだ一片の流言に依つて我國の精神文明の正體が端なくも公然と曝露された。

■恨を呑んで我國の資本家に仕へてパンを得べく海を渡つて來てゐた朝鮮の同胞と、その不逞?の徒と誤認された肌着一枚の避難者、苦節十數年民衆の爲に血と涙を以て戰つて來た社會主義者とは燒跡の灰の中に、秋雨の泥土の中に無慘にも死屍を横へた。

■支配階級もその長年の藥の利き目の餘りに非道であり且殘されしてゐた事に今更の如く恐れ戰いた、そして御用學者と自由主義者との區別なく何れも我が國民の教養の淺く訓練の無く無智狂暴なる事を非難し國民の品格を說き人道を唱へてゐる。

■日本の無産階級はこの震災に直面し、この狂暴この慘虐を飽く迄正視し糺彈し彈劾しなければならぬ。我等はもう既に彼等の正體を見究めた彼等の云ふ教養や、品格やではこの日本の國が救はれない事を知つた。

■我等は此の際禍根を斷つに枝葉を剪りて糊塗する彌縫策には斷乎として反對する。日本の國民の前途には、この狂暴と慘虐を除くべく只一つ拓けてゐるのである!。

そは問はずして明かな事である。

■進め社は今やこの大使命を擔つて花々しく大阪に旗揚けした。

壓迫と迫害とは、甘んじて受けるであらう。大杉の死は日本の社會に何を齎したか、龜戸事件は勞働者に如何なる暗示を與へたか。

社會の必然は、流れ流れて達する所迄達するのだ。安政の大地震の後にも、大リーデーターが來てその後には何が來た……我等は日本のクロレタリアに向つてこゝに『進め』を呈し、急流の只中に棹し赤旗を翻すのだ。

■別項『火焰!銃聲!半鐘!竹槍!』に當時の同人の消息は出てゐるが目下の狀況を簡單に記さう。

●稻●田●狂●二●

檢束が釋けて後郷里出雲に歸り十月上旬上阪、元氣旺盛

●北●原●龍●雄●

農民運動社で憲兵に檢束され十月八日迄廿九日間市谷刑務所に拘留され今は大阪で活動してゐる。

●岡●陽●之●助●

品川署釋放後賦布に在つて「日本社會運動の將來の展望」の一書を物し、今後は社外同人として活動する。

●竹●井●虎●四●郎●

品川署釋放後大阪に在り、都合に依り本社を退社した。

●松●並●齊●

品川署釋放後農民運動社で再び檢束され十月八日迄市谷刑務所に拘留されてゐるが目下郷里北海道に休養してゐる

●竹●下●了●

あの夜の傷が輕快に赴いてから北海道の父母の膝下に歸つた。

■本社には新に早稻田大學新聞同人石川準十郎君が同人として加盟した、同君の知識と技能は既に定評がある處である。今この有力なる同人を得た事を深い喜びとする。今後專ら同君は東京支局の主任として岡陽之助君と共に働いて吳れる筈である。

■震災の爲振替貯金局が燒失したので八月末や九月以後の振替で御注文下さつた諸君のはまだ帳簿へ載つてゐないものもあり又爲替や切手で送つた諸君のは自警團の家宅搜索を受けた當時紛失したものも二三ある、でこの際當時送金された着否を諸君に御迷惑乍ら再び御通知願ひたい。

■それから從來取次してゐた水曜會無産社パンフレットリーフレットは色々の發行元の都合で今月は取扱はず正月號から再び取次をする。代金拂込の諸君のものは確に帳簿に載せてあるから後で必ず送る。尚震災當時送金された方は誌代同樣御一報を望む。

■今迄長い間本誌を無代進呈してゐた人に對しては今回を限りとして全然送らぬ事にする。御購讀希望の方は御一報を乞ふ。

■雜誌御申込の際は住所氏名を可成わかり易く書いて貰ひたい。

又時々字體不明瞭のものがあり發送も出來ず、發送後戻つて來るのも多くて困る。移轉の時は前住所と新住所と兩方書いて貰ひたい。

■一九二三年も忽忙として暮れ行く年の暮れを思はせる風が身に沁みる。

■過激法案反對運動、失業示威運動、メーデーの盛會、共產黨事件、高尾射殺事件、青年デーの開始、大地震と大火災、同志の虐殺慘殺、思へば多事なりし一年なるかなだ。

■震災は兎に角として我國のプロレタリア運動も年々歲々多事多端にして愈々深刻に風勢に進んで行く事と思ふ。我等も亦改年と共に筆硯を改めて諸君に見えるであらう

■終りに讀者諸君の健康を祈る。(橫田忠夫)

告

安藤　健吉
高野松太郎

右兩君は八月中本社を退社した。今後は一切本社と關係の無い事をお知らせする。

大正十二年十二月

進め社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪長堀橋

高島屋呉服店

京都五條……東京中橋

社會主義

社會問題

勞働問題

婦人問題

圖書雜誌

販賣

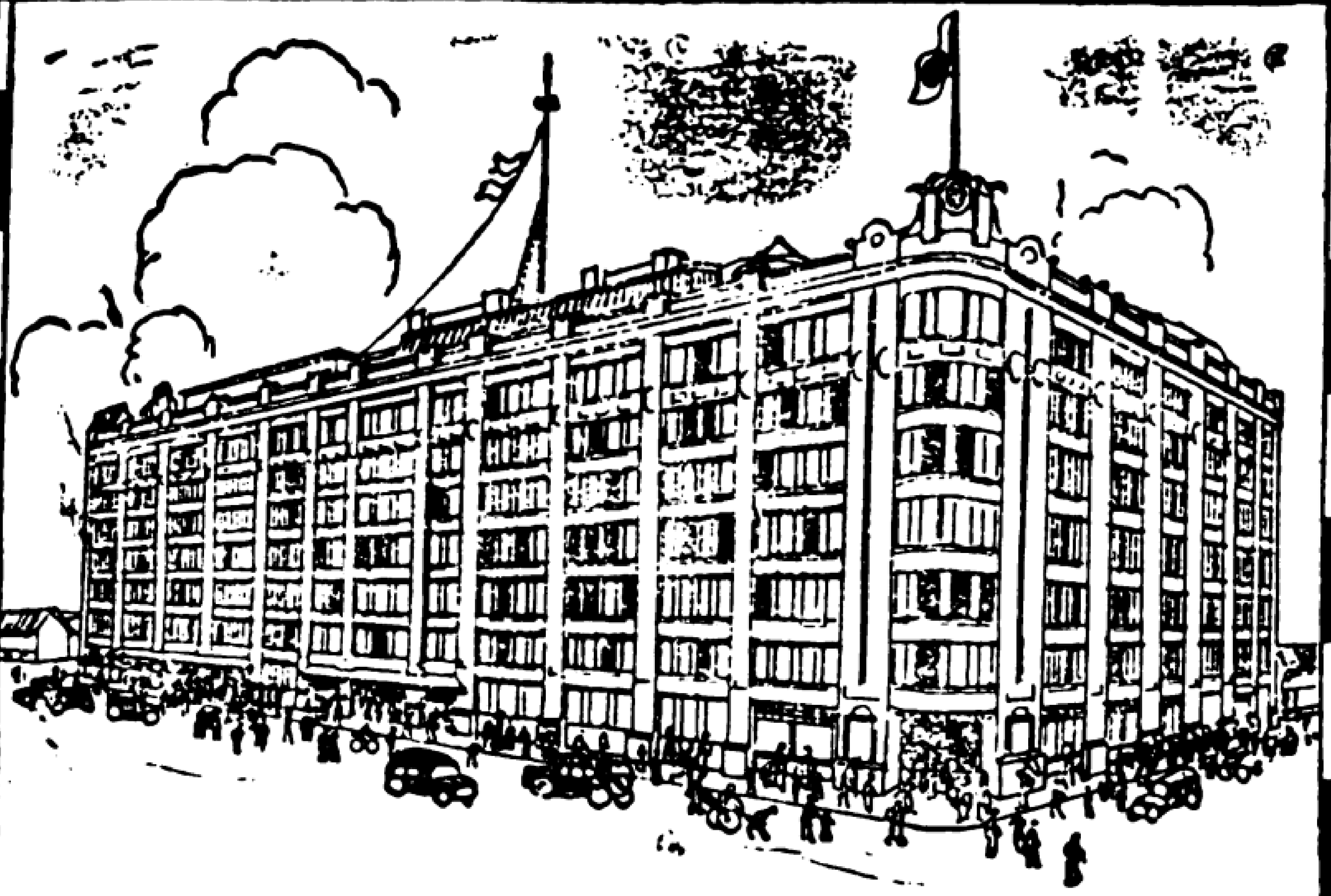
神戸市湊川町二丁目十六番地二三號

支店 湊川公園前百貨店廿一號

上西書店

上西一郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



「趣味と實用」

この頃の三越は「趣味と實用」とを標語として、凡ゆる文化生活の必需品を精選し、只管「品が良くて値が廉い」といふ御好評に背かぬやう努力いたしてをります、一層御愛顧の程偏に希上げます。

遠方からの御註文は御手紙にて「通信販賣部」宛に御願ひ申上げます。

大阪
高麗橋

三越吳服店

大正十二年十二月一日發行（毎月一回）發行所大阪市北區西野田大開町一ノ九二一振替大阪六九〇七二 [illegible]め社
大正十二年一月三十日第三種郵便物認可（一）　發行人 北[illegible]雄　編輯印刷人 [illegible]田忠夫